

令和7年度

日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業
(CIS地域)

成果報告書

筑波大学 国際局国際室

本報告書は、文部科学省政府開発援助外国人留学生
受入推進事業委託費による委託業務として、筑波大学
が実施した令和7年度日本留学促進のための海外ネッ
トワーク機能強化事業の成果を取りまとめたもので
す。従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部
科学省の承認手続きが必要です。

令和7年度 活動報告書

1	事業概要	1
(1)	事業全体概要.....	1
(2)	本事業の達成目標	1
(3)	CIS（中央アジア・コーカサス）地域概要	3
2	各取組の概要	13
(1)	優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進.....	13
①	学校訪問	13
②	大学訪問	14
③	留学フェア	15
④	就職セミナー	15
⑤	大学間交流協定の拡大.....	15
(2)	留学に関する情報収集・発信	16
①	現地の留学に関する情報収集と共有	16
②	現地及び国内関係者等への発信	17
(3)	帰国留学生とのネットワーク構築.....	17
(4)	広報・リクルーティング活動における協力深化.....	18
3	令和7年度の活動実績	18
(1)	優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進.....	18
①	学校訪問	19
②	大学訪問	24
③	留学フェア	39
④	就職セミナー	49
⑤	大学間交流協定の拡大	51
(2)	留学に関する情報収集・発信	51
①	現地の留学に関する情報収集と共有	51
②	現地及び国内関係者等への発信.....	62
(3)	帰国留学生とのネットワーク構築.....	63
(4)	広報・リクルーティング活動における協力深化.....	63
①	ウズベキスタン	63
②	カザフスタン	67
③	キルギス	68
④	タジキスタン	69
⑤	トルクメニスタン	76
⑥	アルメニア	78

⑦	ジョージア	79
4	令和7年度の活動成果の分析	81
(1)	アンケート設問	81
(2)	アンケート分析	84
①	全体の傾向	84
②	ウズベキスタンの回答にみられる傾向	84
③	カザフスタンの回答にみられる傾向	84
④	キルギスの回答にみられる傾向	84
⑤	ジョージアの回答にみられる傾向	84
⑥	トルクメニスタンの回答にみられる傾向	84
⑦	アルメニアの回答にみられる傾向	84
5	次年度への課題検討	85
(1)	本年度の活動で残された課題	85
①	キルギスに特化したリクルーティング策の強化	85
②	ジョージアでの活動強化	85
③	帰国留学生とのネットワーク構築の強化	86
④	本事業専用のホームページ開設	86
⑤	国内連絡会議の開催	86
(2)	アンケート結果から得られた課題	86
①	留学課程	86
②	言語	87
③	留学先としての日本	87
④	費用	87
	付録	87
(1)	アンケート回答一覧	87
①	ウズベキスタン（回答数：422件）	87
②	カザフスタン（回答数：45件）	87
③	キルギス（回答数：58件）	87
④	トルクメニスタン（回答数：30件）	87
⑤	アルメニア（回答数：67件）	87
⑥	ジョージア（回答数：15件）	88

1 事業概要

(1) 事業全体概要

筑波大学は、令和6年3月25日「令和6年度 日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業（CIS（中央アジア・コーカサス）地域）」の実施委託先として採用され、令和7年度も引き続き同事業を受託した。本事業の目標は、当該地域からの留学生数を増加させることである。

本学は、「大学の世界展開力強化事業（ロシア〈CIS地域を含む〉）」[2014-2018]、「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア連邦・CIS地域）」[2018-2022]、そしてこの2つの事業を引き継いだ自走化事業である筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」[2019-現在]において、CIS地域における人材交流・育成事業を担当してきた。長年にわたるこれらの事業によって獲得・蓄積した知見とノウハウ、構築した国内外のネットワークを最大限に活用し、オールジャパンのプラットフォーム大学として以下4つの取組を有機的に行うことで、目標の達成を図る。

- ① 優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動推進
- ② 留学に関する情報収集・発信
- ③ 帰国留学生とのネットワーク構築
- ④ 広報・リクルーティング活動における協力深化

なお、令和4年度（2022）時点における日本への派遣留学生数、海外派遣留学生数の動向、大学進学率、経済成長率、1人当たりのGDP、人口増加率、現地の支援体制等を総合的に判断し、当該地域のなかでも中央アジア地域のウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、コーカサス地域のジョージア、の4カ国を優先取組国とし、上記の取組を特に優先して行う。

以下では、本事業の達成目標、本事業が対象とするCIS（中央アジア・コーカサス）地域の概要について、それぞれ述べる。

(2) 本事業の達成目標

本事業の目標は、CIS（中央アジア・コーカサス）地域からの留学生数を増やすことである。事業計画時には、当該地域からの留学生総数と各国からの留学生数の2つの項目において、達成目標を定めた。具体的には、令和4(2022)年5月1日時点で2,197名であった当該地域からの留学生総数を、令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの5年間で3,300名に増やすこと、各国の留学生数を約1.5倍に増やすことである（詳細は表1参照）。

(★は拠点を配置する優先取組国)

表1 令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの日本の高等教育機関への留学生数の数値目標								
国名	人口（国連人口基金 2022）	令和4年 (2022)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	事業開始前比 (令和10年/4年)
ウズベキスタン★	3,462.8万人	1,659名	1,827名	1,995名	2,163名	2,331名	2,500名	1.51
カザフスタン★	1,939.8万人	176名	193名	210名	227名	244名	260名	1.48
キルギス★	663.1万人	136名	149名	162名	175名	188名	200名	1.47
タジキスタン	995.3万人	82名	90名	97名	105名	112名	120名	1.46
トルクメニスタン	643.1万人	26名	28名	31名	34名	37名	40名	1.53
中央アジア諸国全体	7704.1万人	2,079名	2,287名	2,495名	2,703名	2,911名	3,120名	1.50
アゼルバイジャン	1,035.8万人	34名	38名	42名	46名	50名	55名	1.62
ジョージア(グルジア) ★	374.4万人	17名	18名	19名	21名	23名	25名	1.47
アルメニア	278.0万人	13名	15名	16名	17名	18名	20名	1.54
コーカサス諸国全体	1,688.2万人	64名	71名	77名	84名	91名	100名	1.56
ベラルーシ	953.5万人	50名	54名	58名	62名	66名	70名	1.40
モルドバ	327.3万人	4名	6名	8名	10名	12名	10名	2.50
CIS対象国全体	1億673.1万人	2,197名	2,418名	2,638名	2,860名	3,081名	3,300名	1.50

出典:独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)調べ2022年5月1日

当該地域からの留学生総数に関しては、令和6(2024)年5月1日の時点で3,583名¹であり、事業計画時点での数値目標をすでに達成している(表2)。そこで、本年度以降の目標は、各国からの留学生数に着目し、個別に定めた数値目標を達成していない国々での取組を強化すること、また既に目標数値を達成している国々での取組を維持・強化しつつ対象地域全体での留学生数の更なる増加へ繋げることである。なお、表2における黄色の帯は、2024年度時点で既に目標を達成している国を示している。

¹ 日本学生支援機構「留学生調査」の結果による。

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO), 2018-2024 CIS 拠点拠点出身留学生数推移(国別・国費私費別) 各年5月1日現在

表2 令和4(2022)年度から令和6(2024)年度までの日本の高等教育機関への留学生数(実数値)						
国名	人口(国連人口基金 2022)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	事業開始前比 (令和6年/4 年)	目標数値 (令和10年度)
ウズベキスタン★	3,462.8万人	1,659名	2,315名	2,844名	1.71	2,500名
カザフスタン★	1,939.8万人	176名	249名	269名	1.53	260名
キルギス★	663.1万人	136名	153名	189名	1.39	200名
タジキスタン	995.3万人	82名	91名	90名	1.10	120名
トルクメニスタン	643.1万人	26名	24名	27名	1.04	40名
中央アジア諸国全体	7704.1万人	2,079名	2,832名	3,419名	1.64	3,120名
アゼルバイジャン	1,035.8万人	34名	52名	43名	1.26	55名
ジョージア(グルジア)★	374.4万人	17名	24名	29名	1.70	25名
アルメニア	278.0万人	13名	18名	17名	1.31	20名
コーカサス諸国全体	1,688.2万人	64名	94名	89名	1.39	100名
ベラルーシ	953.5万人	50名	61名	65名	1.30	70名
モルドバ	327.3万人	4名	4名	10名	2.50	10名
CIS対象国全体	1億673.1万人	2,197名	2,991名	3,583名	1.63	3,300名

出典:独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)調べ2022年5月1日

(3) CIS（中央アジア・コーカサス）地域概要

本節では、本事業が対象とする CIS(Commonwealth of Independent States)諸国について、各国の情勢、ならびにそれを踏まえた留学生のリクルート戦略について述べる。本事業が対象とする CIS 諸国は、中央アジア 5 カ国（ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン）、コーカサス 3 カ国（アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア）及びベラルーシ、モルドバの 10 カ国である。(1)で述べたように、当該 10 カ国のうち、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージアの 4 カ国を優先取組国として扱い、重点的にリクルーティング活動を推進する。これら 4 カ国を優先取組国として、取り扱う理由は以下の通りである。

本事業が対象とする 10 カ国全体の人口は 1 億人を超えるが、そのうちの 6 割以上を優先取組国の 4 カ国の人口が占める（表 4）。さらに表 3 で示すように、海外で教育を受ける海外派遣留学生数は CIS 地域全体で約 42 万人であるのに対し、優先取組国 4 カ国でその全体の半数以上を占める。したがって、これら 4 カ国には、海外に進学先を求める人材が相当数いると考えられる。それにも関わらず、日本への派遣留学生数は極めて少なく、最も派遣留学生数が多いウズベキスタンでさえ、1.2%にすぎない。つまり、海外留学先として日本をほぼ想定していないこうした地域では、従来のやり方にこだわらない新たな発想で、先行事業の推進で得た知見とネットワークを基盤に現地日本関係機関等と連携し地方の大都市の学校・大学と生徒・学生の保護者に焦点を当てて、より優れた人材を確保し、着実に増やす

交流基盤と日本留学への流れを組織的に構築していくことが重要である。

表3 CIS対象国の海外派遣留学生数の状況					
国名	当該国の 全派遣留学生数	当該国の派遣留学生数上位3国 派遣人数(全派遣留学生数比率)			日本への派遣留学生数 (全派遣留学生数比率)
ウズベキスタン	109,945人	キルギス 51,605人(46.9%)	ロシア 27,397人(24.9%)	カザフスタン 26,130人(23.7%)	1,368人 (1.2%)
カザフスタン	91,860人	ロシア 71,368人(77.7)	トルコ 2,911人(3.2%)	チェコ 2,395人(2.6%)	119人 (0.1%)
キルギス	13,757人	ロシア 7,291人(53.0%)	トルコ 1,649人(12.0%)	カザフスタン 1,161人(8.4%)	106人 (0.8%)
タジキスタン	27,459人	ロシア 21,973人(80.0%)	キルギス 1,595人(5.8%)	トルコ 626人(2.3%)	53人 (0.2%)
トルクメニスタン	69,519人	ロシア 27,889人(40.1%)	トルコ 19,384人(27.9%)	ベラルーシ 6,482人(9.3%)	23人 (0.03%)
中央アジア諸国全体	312,540人				1,669人 (0.5%)
アゼルバイジャン	48,097人	トルコ 23,772人(49.4%)	ロシア 10,946人(22.8%)	ウクライナ 4,375人(9.1%)	28人 (0.06%)
ジョージア	9,240人	ドイツ 1,997人(21.6%)	ウクライナ 1,477人(16.0%)	アルメニア 851人(9.2%)	17人 (0.18%)
アルメニア	6,561人	ロシア 3,891人(49.4%)	ドイツ 782人(11.9%)	米国 301人(4.6%)	11人 (0.16%)
コーカサス諸国全体	63,898人				56人 (0.09%)
ベラルーシ	26,708人	ロシア 11,614人(43.5%)	ポーランド 8,994人(33.7)	ドイツ 1,124人(4.2)	36人 (0.13%)
モルドバ	16,714人	ルーマニア 12,346人(74.9%)	ドイツ 826人(4.9%)	イタリア 548人(3.3%)	7人 (0.04%)
CIS対象国全体	419,860人				1,768人 (0.4%)
出典UNESCO Institute for Statistics, Global Flow of Tertiary-Level Students https://uis.unesco.org/en/uis-student-flow 2024.1.30閲覧					

そこで、CIS地域各国の人口と国内総生産（GDP）や、高等教育機関への進学状況等を概観しながら、各国の情勢と事業展開にあたっての方針をまとめる。特に、本事業の優先取組国であるウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージアと事業計画時に優先取組国として想定していたアゼルバイジャンについては、個々に取り上げて、各国の国勢と教育事情について報告する。なお、CIS地域各国の人口と国内総生産（GDP）およびその世界190カ国中の順位、一人当たりのGDP、高等教育機関（tertiary education）進学率の一覧は表4の通りである。

表4 CIS 地域各国の人口と国内総生産および世界順位、一人当たり国内総生産、進学率

国名 (◎優先取組国)	人口 ² (2025 / 1991 単位:人)	人口上昇 率 (2025 / 2024)	国内総生産 (GDP,単位:米 ドル) ³	順位 (197カ 国中)	一人当たり GDP (単位: 米 ドル)	高等教育機 関進学率 ⁴
◎ウズベキ スタン	37,053,428 / 20,962,910	△1.90%	1374億8000万	62	3,650	56.52%
◎カザフス タン	20,843,755 / 17,278,600	△1.22%	3000億5000万	50	14,720	53.46%
◎キルギス	7,295,035 / 4,532,116	△1.52%	201億6000万	130	2,790	53.17%
◎ジョージ ア	3,806,671 / 5,379,510	▼0.02%	374億	106	10,130	78.27%
タジキスタ ン	10,786,734 / 5,541,205	△1.85%	170億3000万	136	1,640	35.64%
トルクメニ スタン	7,618,848 / 3,855,894	△1.66%	721億2000万	87	10,800	20.43%
アゼルバイ ジャン	10,397,713 / 7,314,308	△0.59%	763億9000万	86	7,370	41.34%
アルメニア	2,952,365 / 3,613,977	▼0.72%	278億6000万	115	8,970	52.77%
モルドバ	2,996,106 / 4,456,609	▼1.28%	196億2000万	131	8,240	74.71%
ベラルーシ	8,997,603 / 10,193,889	▼0.65%	857億4000万	81	9,440	70.11%
日本	123,103,479 / 123,889,871	▼0.52%	4兆2800億	4	34,710	64.89%

²United Nations, Data Portal Population Division. UN Population Division Data Portal Interactive access to global demographic indicators
(<https://population.un.org/dataportal/home?df=2d3e5f7d-8faf-4b78-a97c-d83b07b12619>) 2026 年 4 月 10 日閲覧.

³表内「国内総生産」「順位」「一人当たり GDP」についてすべて 2025 年時点。
International Monetary Fund (<https://www.imf.org/external/datamapper/datasets/WEO>) 2026 年 4 月 10 日閲覧.

⁴GLOBAL NOTE (<https://www.globalnote.jp/post-1465.html>). 2026 年 4 月 10 日閲覧.

【ウズベキスタン】

本事業の成否の鍵を握る親日国である。建国当時の1991年に2096.2万人⁵だった人口は2026年2月10日時点で3830.5万人まで増加⁶しており、域内最大の人口を持つ。経済成長も著しく、2024年から2025年にかけての実質GDP成長率は6.8%で、一人当たりGDPは2020年に1,959米ドルだったものが、2025年時点では1.5倍以上の成長を遂げ、3,650米ドルとなっている。富裕層も都市部を中心に急速に増加しており、人口増に伴う大学進学需要に国内の大学の数が追いつかず、海外進学に活路を求める若者が多い。2023年の国際連合教育科学文化機関（UNESCO）の統計では、ウズベキスタンは中国、インド、ナイジェリア、ドイツ、ベトナムに次いで、世界第6位（120,563人）の留学生送り出し国となっていることが報告された⁷。

海外留学先の最大の特徴は、留学先として選択する国が近隣国のキルギス、ロシア、カザフスタンに極端に限定されていることである（表2）。これらの国へと派遣される留学生数が、ウズベキスタンの海外留学生数全体の実に96%に相当する。この理由は、ロシアとカザフスタンと両国との経済的な結びつきが強く、両国が代表的な出稼ぎ先であること、大学のレベルも地域内で相対的に高いこと、ロシア語は地域共通語、キルギス語とカザフ語はウズベク語と同系のチュルク諸語で言語的な障害がほぼないこと、学費や生活費も相対的に低く、経済的負担を最小にできることなどが考えられる。ウクライナ戦争の影響を受けてロシア留学の割合が多少減り、カザフ留学が増える可能性がある。首都タシケント市（人口3,164,030人、州全体では6,312,599人）のみならず、サマルカンド州（4,360,070人）、ナマンガン州（3,177,070人）、アンディジャン州（3,507,220人）⁸をはじめとする経済発展が目覚ましい地方都市には、数多くの進学校や海外留学を志向する有力地方大学が確実に存在すると推測され、日本留学を推進する上での大きなポテンシャルを秘めているといえる。

筑波大学は、2007年に協定校であるタシケント国立東洋学大学内にタシケントオフィス、2025年に協定校であるサマルカンド国立大学内にサマルカンドリエゾンオフィスを設置し、各拠点にコーディネーターを配置している。各コーディネーターは現地大学にて教鞭をとっている現役の教員で、現地の教育事情に精通しており、留学フェア・現地説明会の広報・

⁵出典：United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2024). *World Population Prospects 2024*, Online Edition. (<https://population.un.org/wpp/>) 2025年1月15日閲覧。

（以下各国の1991年時点の人口情報の出典はすべて同上）

⁶2025年1月14日時点、出典：ウズベキスタン大統領府附属統計局（<https://www.stat.uz/en/58-useful-information/5903-permanent-population>）2025年1月14日閲覧。

⁷出典：UNESCO Institute of Statistics（<https://databrowser.uis.unesco.org/>） ”Total outbound internationally mobile tertiary students studying abroad, all countries, both sexes (UIS estimate) (number) “. 2026年4月13日閲覧。

⁸すべて2025年10月1日時点、出典：ウズベキスタン大統領府附属統計局（<https://stat.uz/en/press-center/news-of-committee/64960-ajsi-udud-a-olisi-eng-k-p-4>） ” Which region has the largest population?”, 2026年4月13日閲覧。

運営を含むサポートなど、東部の首都タシケントと西部の古都サマルカンドを軸とした機動的な日本留学情報の発信が可能である。

ウズベキスタンにおいてはJICAウズベキスタン日本センター（UJC）と協力し、毎年ウズベキスタン留学フェアを開催している。在外公館と協力をしながら活動を行う。

【カザフスタン】

域内で最も経済的に発展したエネルギー資源大国。政治的・経済的に隣国のロシアと中国の強い影響下にある。生活水準も高く、都市部の平均的な生活は日本と全く変わらない。人口も増え続けており、1991年の17,278,600人から、2025年時点で20,843,755人まで増加している⁹。1人当たりのGDPも相対的に高いうえ、2020年には9,121米ドルであったのが、2025年時点では14,720米ドルになるなど、近年著しい伸びを見せている¹⁰。2024年から2025年にかけての実質GDP成長率は5.9%である。

教育・研究レベルは域内最高レベルで、大学院進学意欲を持つ学生も多く、英語による教育・研究体制も域内で最も進んでいる。中央省庁幹部が博士号取得を志向する傾向も見えはじめた。ただし、大学進学率は、2020年時点では64.85%だったものが、2024年の統計では56.53%へと減少している点は近年の変化として注視する必要がある¹¹。

海外留学先はロシアが突出し、全体の8割弱（77.7%）を占める（表2）。しかし、ウクライナ戦争を契機として、カザフ政府の脱ロシア化傾向が目立つ。ロシアの国際的地位の低下、欧米とロシアとの関係悪化が児童・生徒・学生に与える影響は大きい。今後、留学先としてロシアの割合は減少する可能性が高く、その他の国への割合が増すものとみられる。また、カザフスタンの首都アスタナと旧都アルマトイに集中する高等教育機関のトップ層は、研究と教育の高度化と世界標準化を目指しており、欧米諸国の大学志向が非常に強い点も特徴である。地方都市の発展も著しい。首都アスタナ（155.1万）や旧都アルマトイ（230.6万人）に目が行きがちだが、シムケント（126.4万人）、カラガンダ（113.4万人）¹²といった第3、第4の地方大都市における留学需要の潜在力は疑いない。潜在的な日本留学生の獲得を

⁹United Nations, Data Portal Population Division. UN Population Division Data Portal Interactive access to global demographic indicators (<https://population.un.org/dataportal/home?df=2d3e5f7d-8faf-4b78-a97c-d83b07b12619>) 2026年4月13日閲覧。

¹⁰2024年10月時点。出典：International Monetary Fund（国際通貨基金）
(<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/weo-database/2024/October>) 2025年1月14日閲覧。
（以下各国の2024年10月時点1人当たりGDP（米ドル）情報の出典はすべて同上）

¹¹2024年9月時点。出典：UNESCO Institute for Statistics (UIS)
(<https://apiportal.uis.unesco.org/bdds>) 2025年1月14日閲覧。（以下各国の大学進学率情報の出典はすべて同上）

¹²2025年4月1日時点。出典：カザフスタン共和国国家戦略計画改革庁国家統計局
(<https://stat.gov.kz/en/industries/social-statistics/demography/publications/377536/>) 2026年4月13日閲覧。

目指すうえでは、都心部はもとより、こうした地方の大都市においても留学フェア等を展開することが有効であると推定される。

筑波大学は2014年に協定校であるアルマトイのカザフ国立大学内に、アルマトイオフィスを設置し、コーディネーターを配置している。本コーディネーターは同大学で教鞭をとっており、現地語であるカザフ語の運用能力も高く、筑波大学のコーディネーターとして短期留学や語学研修生の受入れサポート、筑波大学への短期留学候補生との面談など、留学生交流に関する知見を有する。この現地オフィスを活用し、留学フェアや説明会のサポート・コーディネートをはじめ、日本語・日本文化講義を通じた日本留学の機運の醸成が可能である。

カザフスタンとキルギスではカザフスタン日本人材開発センター（KJC）、キルギス日本人材開発センター（KRJC）と協力し、毎年カザフスタン・キルギス留学フェアを開催している。

【キルギス】

政治経済的にはロシアの影響が大きい、中央アジア諸国の中では、最も政治的自由度が高い国であり、中国、トルコ、アメリカの影響力も顕著である。他の中央アジア諸国と同様に人口増がみられ、1991年の4,532,116人から、2025年12月1日時点で7,295,035人まで増加している¹³。経済は停滞気味だが、首都、地方の大都市は発展しており、2025年の実質GDP成長率は8%である。1人当たりのGDPが2,790米ドルと、CIS地域内の他国と比べるとやや低いため、貧しい国という評価を受けることが多い。国内の就職先の給与水準がロシアやカザフスタンと比べて格段に低く、ロシアやカザフスタンに出稼ぎにいく若者が多い。ただし、首都ビシュケクでの生活水準は高く、日本並みである。大学進学率は56%であり、海外留学志向の学生も都市部には多い。海外留学先はロシアが半数（53.0%）を占め、トルコとカザフスタンが各1割程度と続く（表2）。ウクライナ戦争の影響を受け、ロシア留学が相対的に減少し、トルコとカザフスタンその他への留学数が増加する可能性がある。首都ビシュケク（1,321,900人）¹⁴のみならず、第2の地方都市オシュ（473,500人）における留学需要の潜在力への対応も必要である。オシュで最も大きな大学であるオシュ国立大学は50,000人の学生を有し、地方都市での高等教育需要を窺わせる。

2024年の9月に本事業の枠組みでビシュケク国立大学内にビシュケクリエゾンオフィスを設置し、現地で約35年教鞭をとり現地事情に精通しているコーディネーターを配置してい

¹³United Nations, Data Portal Population Division. UN Population Division Data Portal Interactive access to global demographic indicators

(<https://population.un.org/dataportal/data/indicators/49/locations/398/start/1991/end/2027/table/pivotbylocation?df=2d3e5f7d-8faf-4b78-a97c-d83b07b12619>) 2026年4月13日閲覧。

¹⁴2025年1月1日時点。出典：キルギス共和国国家統計委員会

(<https://stat.gov.kg/en/opendata/category/39/>) 2026年4月13日閲覧。（オシュの人口情報についても同様）

る。このコーディネーターの知見・人脈を活かし、現地学生・教育関係者への効果的な情報発信が可能である。

【ジョージア】

ジョージアは南コーカサスに位置し、西は黒海、北はロシア、南はトルコとアルメニア、東はアゼルバイジャンに接する。国土の多くは山地で、北部には大コーカサス山脈、南部には小コーカサス山脈が連なり、ヨーロッパとアジアの結節点にあることが大きな地理的特徴である。民族面ではジョージア人が多数派で、少数民族としてアゼルバイジャン系、アルメニア系なども居住している。地政学的には、黒海とカスピ海圏を結ぶ交通・物流・エネルギー回廊上にあり、ロシアが実効支配するアブハジアおよびツヒンヴァリ地域／南オセチアを抱えるなど、安全保障上の緊張も併せ持つ。

人口は1991年に約538万人だったが、2025年時点では約380万人となっており、独立後の経済混乱や移民流出の影響を受けて長期的に縮小してきている。なお、近年は純移動の改善により足元ではやや持ち直しもみられる。

経済面では、ジョージアは依然として発展途上の段階にある一方、改革の進展により近年の成長率は高く、IMFによれば2025年時点の1人当たりGDPは10,130ドル、実質GDP成長率は7.2%である。観光、サービス、物流、エネルギー回廊関連が成長を支える分野であり、ビジネス環境改善でも一定の評価を受けている。

高等教育については、大学進学の高まりが比較的進んでおり、世界銀行系データでは高等教育総就学率は2023年に78.27%とされる。OECDはジョージアの教育制度について、学習成果の改善や改革の継続を指摘しており、教育は社会的上昇や国際的キャリア形成の重要な手段として強く意識されているとみられる。近年の高等教育政策も、質保証や制度の近代化、欧州基準との整合を重視している。

学生の海外留学志向も比較的強く、特に欧州方面への関心が高い。留学生の送り出し先の上位3カ国はドイツが最も多く21.6%、次いでウクライナが16.0%、隣国のアルメニアが9.2%と続く。留学生の全体数は9,240人と他の優先取組国と比べ少ない（ウズベキスタンが約11万人、カザフスタンが約9万人、キルギスが約1.3万人）が、アゼルバイジャンとアルメニアが領土問題（ナゴルノ＝カラバフ）を抱え、2度の紛争を経験し、国交を断絶している状況の中、コーカサス3カ国を繋ぐハブとして地域で担う役割が大きい。

ジョージアでは、2026年5月に協定校のイリア大学にトビリシリエゾンオフィスを開設する。本オフィスは2026年2月にプレオープンし、現地語を理解し、現地事情に精通するトビリシ国立大学の教員をコーディネーターとして配置している。トビリシにはJICAジョージア支所も開設されており、コーディネーターを通じて現地在外公館、JICAと連携し、大規模なイベントの開催が可能である。

【アゼルバイジャン】

コーカサス諸国の中で唯一カスピ海に面し、中央アジアのウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、トルクメニスタンと同じチュルク系民族国家である。同じコーカサス諸国の隣国アルメニアとは領土問題（ナゴルノ＝カラバフ）を抱え、2度の紛争を経験し、国交を断絶している。ロシアよりもトルコとの経済・政治・軍事関係が深く強固である。石油・天然ガスというエネルギー資源を背景に経済発展が続いており、2024年10月時点での1人当たりのGDPは7,381米ドルと、域内では相対的に高い。1991年に731万人だった人口は、2024年5月の発表で1,018万人まで増加したことが報告された¹⁵。順調な経済発展に伴い、子弟の教育に投資する裕福な家庭も確実に増えている。大学進学率は41.4%で、2020年以降毎年1~2%ずつの割合で増加している。海外留学先は、トルコが最も多く半数を占め（49.4%）、ロシアが2割、ウクライナが1割を占める（表2）。ウクライナ戦争の影響で、今後はロシア、ウクライナへの留学は減少し、トルコ他への留学がさらに増えると推測される。

その一方、近年ではカザフスタン、ウズベキスタンに続き、アゼルバイジャンでも今後の社会・経済発展を担う人材育成のために、欧米などの先進国へ積極的に留学生を派遣する政策がみられた。本事業においても、日本を魅力的な留学先としてアピールすることが不可欠であると考え、コーカサスにおける留学拠点をアゼルバイジャンに設置し、事業計画作成時には同国を優先取組国とすることを検討していた。しかしながら、令和7年2月に行った在アゼルバイジャン日本国大使館への表敬訪問において、これについて渡辺克也特命全権大使をはじめとした大使館職員へ相談したところ、現地大学との協働の難しさ、日系企業の駐在や在留邦人の減少、国際交流基金による日本語教育専門家派遣の打ち切り等々から、同国に留学拠点を設置することの難しさについて説明を受けた。また、現地における協定大学と協議した際にも、海外オフィスを開設した前例がないことなどを理由に難色を示されたため、当初の予定変更を余儀なくされた。

その後、訪問したジョージアでは現地大学からオフィス開設に前向きな返事を得ることができたこと、またジョージアにはコーカサス諸国唯一のJICAが拠点を置くジョージア支所が置かれていることもあり、ジョージアを代わりに重点取組国として選定した。上述の通り、ジョージアは、他の2国が国交を断絶する中で、3か国を繋ぐハブとしての役割を果たすことができる。

重点取組国のうち、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスについては、これまでに現地の留学ニーズを踏まえて実施してきた本事業関連取組の十分な実績がある。また、前述した地方都市部への事業展開と生徒・学生の保護者を対象にした日本留学PR活動を積極的に進めるといふ、新たな戦略的ビジョンがある。一方ジョージアについては、これまでの取組

¹⁵2024年5月20日発表時点。出典：アゼルバイジャン共和国国家統計委員会（2024）『アゼルバイジャンの人口、2024』（Azərbaycan Respublikasının Dövlət Statistika Komitəsi (2024). *Azərbaycanın əhalisi, 2024.*）(https://www.stat.gov.az/source/demography/ap/az/Azerbaijanin_ehalisi-2024.zip) 2025年1月14日取得。

においては強固な交流基盤形成に至っていない。よって本事業を通じ、現地在外公館と本学の大学間交流校であるトビリシ自由大学、2025年度に新たに協定を締結したトビリシ国立大学、イリア国立大学、バトゥミ国立大学と連携し、トビリシでの留学フェアの継続を足がかりに、付属学校での説明会の実績を積み上げることを目標とする。最終的には上記3カ国の事業体制に匹敵する、コーカサスの中核となる交流ネットワークを構築することを目指す。

一方、その他の国についての国内状況および留学事情、また国際政治事情については以下の通りである。

タジキスタンは、人口増加率が顕著であり(1991年の5,541,205人から2025年時点で10,786,734人に増加)¹⁶、海外留学需要のポテンシャルも潜在的に高い。しかし、GDPの約半分をロシア等での出稼ぎによる送金に依存している経済状況¹⁷から、富裕層も相対的に少なく、私費で日本留学を実現できる家庭は極めて限定的だと推測される。

トルクメニスタンは、カスピ海のエネルギー資源を背景とした経済発展の著しい国である。1人当たりのGDPは12,713米ドルで、中央アジアの中でも高い生活水準を達成している。人口増加も顕著で、富裕層も相当数育っていると見られる。また2015年の安倍元総理の訪問以降、政府によって日本語学習が大々的に推し進められており、中央アジアの中でも日本語学習が極めて多く、2023年には13,000人が日本語を学んでいると推計されている¹⁸。そのため、海外および日本留学需要のポテンシャルは非常に高い。しかしながら、同国の政治体制の特殊事情もあり、大学間交流や学校訪問等の広報活動は、すべて政府機関を通じて行う必要がある。

アルメニア、モルドバは、人口の規模が相対的に小さく、ソ連崩壊後の人口移動や少子化などにより、人口減少が続いている(表4)。しかしながら、近年の経済成長は著しく、2025年度の1人当たりGDPは両国ともに8,000米ドルを超え、実質GDP成長率はアルメニア：4.8%、モルドバ：1.7%であり裕福な家庭が一定数いることが窺える。高等教育機関への進学率もアルメニア：52.77%、モルドバ：74.71%と対象国の中でも比較的高く、海外留学需要が確かに存在すると考えられる。このような需要を的確にキャッチし、日本留学促進につなげていく交流体制の構築が求められる。

ベラルーシは約900万人の人口を有し、高等教育機関進学率も70%と高い水準を保っている。理数系教育に定評があり、優秀なIT系技術者を数多く輩出している。彼らは自国のIT企業やポーランドなど欧州各地で活躍し、IT産業の発展に貢献している高度人材である。経済

¹⁶出典：United Nations, Data Portal Population

Division.(<https://population.un.org/dataportal/data/indicators>) 2026年4月14日閲覧。

¹⁷独立行政法人国際協力機構(JICA)(2019-4-15)。「移民労働者からの送金に頼る家計の調査研究を通じて見たタジキスタン」

(<https://www.jica.go.jp/Resource/tajikistan/office/others/interview/20190415.html>). 2025年1月23日。

¹⁸ 国際交流基金 日本語教育 国・地域別情報 1 トルクメニスタン(2023年度),

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/turkmenistan.pdf>

発展も順調に遂げており、2025年の1人当たりGDPは9,440米ドルである。海外留学需要のポテンシャルも高い。その一方で、2014年を境に大学進学率は減少を続けており、2023年には7割を切った（67%）。これは1990年代後半以降継続する慢性的な人口減少（10,197,464人/1995→8,997,603人/2025）¹⁹と、それに伴う若者の減少と関連するものと考察される。また、ロシアとの政治・経済・軍事の関係が深いことから、現在ロシアによるウクライナ侵攻の影響下にある。ベラルーシとの交流は、戦局を見ながら、慎重に進めていくことが大切である。2026年4月14日現在、日本外務省から海外渡航危険レベル3（渡航中止勧告）、ウクライナとの国境付近ではレベル4（避難勧告）の危険情報²⁰が出されており、対面での交流事業実施は困難である。

以上の現地状況を踏まえ、上記6カ国（タジキスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャン、アルメニア、モルドバ、ベラルーシ）における事業推進は、各国の事情や国際政治状況を見極めつつ、現地日本関係機関と協力しながら柔軟に実施することとする。

¹⁹ 2024年7月1日時点。出典：United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2024). *World Population Prospects 2024*, Online Edition. (<https://population.un.org/wpp/>) 2025年1月15日閲覧。

²⁰ 2024年12月12日更新情報による。出典：外務省(2018).『海外安全ホームページ』(https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_185.html#ad-image-0) 2026年4月14日閲覧。

2 各取組の概要

本章では、前章で述べた目標の達成のために本事業で行う具体的な取組について述べる。本事業で行う取組は、以下の4つから成る。

- ①優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進
- ②留学に関する情報収集、発信
- ③帰国留学生とのネットワーク構築
- ④広報・リクルーティング活動における協力強化。

以下では、それぞれについて詳述する。

(1) 優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進

本事業においては、優秀な留学生の獲得に向けて、取組優先国の教育機関を中心に、現地日本関係機関と密接に連携しながら、次の5つの事業を柱とするリクルーティング活動を展開する：

- (i)学校訪問、(ii)大学訪問、(iii)留学フェア、(iv)就活セミナー、(v)大学間交流協定の拡大

活動の実施にあたっては、筑波大学海外拠点（ウズベキスタン・タシケントオフィス、ウズベキスタン・サマルカンドリエゾンオフィス、カザフスタン・アルマイオフィス、キルギス・ビシュケクリエゾンオフィス）と、新たに筑波大学の交流協定校となったジョージア・トビリシのイリア大学に設置するリエゾンオフィスの現地ネットワークを効果的に活用する。

① 学校訪問

学校訪問においては、まず高校生を対象に、すでに信頼関係のある大学付属学校（小中高一貫校）から活動を始める。年次の進行に合わせ、現地の公立・私立の教育機関の状況を把握しながら、対象の学校を徐々に増やしていく。学校訪問の活動内容は、出前授業と大学留学説明会の2つの形態を計画している。出前授業では、日本語と日本文化に関する講義または現地訪問をする教員による専門の講義を行い、日本語学習と日本留学への動機づけの契機を作る。それに続けて大学留学説明会を行うことで、日本留学がリアルな進学の実選択肢であるという意識を持ってもらう（**高校生対象の出前授業と日本留学説明会**）。

本事業の新たな試みの一つとして、出前授業にも大学留学説明会にも帰国留学生のOB・

OGまたは現役留学生を可能な限り参加させ、対面、オンラインまたはビデオメッセージで自身の留学経験とその後のキャリアについて実体験を語ってもらう（**帰国留学生・現役留学生の参加**）。学校訪問の実施後は、築いたネットワークをより強固なものにするために、双方向型のオンライン授業を実施する。各高校について、対面とオンラインでの出前授業を各一回ずつ実施する。

次に、高校生の保護者だけを対象とした大学進学説明会と日本就職セミナーをセットで実施する。CIS諸国では日本のような一斉就活文化は存在せず、縁故採用が絶大な力を持っている。そのため、大学を卒業しても就職口を見つけられず、苦勞している若者は多い。その意味で、高度人材需要の高い日本の就職事情とそれにつながる進学先としての日本留学の情報を伝える意義は大きい（**日本就職セミナーの並行実施**）。

さらに、長期的な視点に立てば、知日派の若い世代を増やすことの意義は大きい。潜在的な訪日留学生候補である小中高生の生徒・児童に対しても、映像や音楽などを使った日本語の出前授業を行い、日本語学習と日本への関心を高める活動を進めていく。可能な範囲で保護者にも授業参観の形態で参加してもらう。こうした活動を、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージアの首都の大学付属学校に加えて、第2、第3の規模の都市の進学上位校にも活動を順次拡大する。これら4カ国の地方の大都市には、各国の経済発展に伴って私費でも日本留学を実現できる相対的に裕福な家庭が確実に増えており、日本留学生の開拓において大きな潜在力を秘めている。各小中学校でも、人的・組織的ネットワークと信頼関係の強化のために、基本的に対面とオンラインで各1回ずつ出前授業を実施する（**小中学生のための日本語出前授業**）。

② 大学訪問

大学訪問では、主に日本研究を専攻する学部学生と英語で専門教育を受けられる学部学生を対象に、出張授業、大学院進学説明会、日本就職セミナーの3つの形態をセットにしたプロモーション活動を行う。出張授業では、日本語を学ぶ現地学生向けの日本語・日本文化の出張授業2回（対面とオンラインを各1回）、大学院進学説明会1回（対面またはオンライン）、日本就職セミナー1回（対面またはオンライン）を、それぞれ日にちを変えて、3回1セットで企画・実施する。オフライン実施の出張授業には、必ず帰国留学生のOB・OGまたは現役留学生を参加させ、対面、オンラインまたはビデオメッセージで自身の留学体験談とその後のキャリアパスを語ってもらう。日本就職セミナーでは、筑波大学が本事業を通じて、オールジャパンの日本留学プラットフォーム大学として留学中の組織的なサポート（就職情報やインターンシップ募集情報などを随時提供する等）を行うことを伝える。日本留学準備の自律学習支援として、文部科学省の世界に開かれたe-ラーニングシステムであるJV-Campusの活用を推進する。また帰国後も、各国の同窓会ネットワークや本事業活動を通じて、帰国留学生の支援活動を継続的に行っていく。

③ 留学フェア

取組優先国のウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージアについては、筑波大学海外拠点と、新設するリエゾンオフィスのネットワークを基盤として、在外公館、JICA事務所、JICA日本人材開発センター、筑波大学の交流協定校等と協力しながら、毎年留学フェアを実施する。その際、留学フェアと日本就職セミナーを必ず組み合わせて実施する。実施形態としては、対面での開催を中心に公開で行う。現地のニーズに合わせ、個別大学に対するミニ留学説明会をオンラインでこまめに実施する。留学フェア開催に合わせた学校訪問・大学訪問と大学間交流協定のマッチングを行う（取組優先国での定期的な対面開催）。

取組優先国以外の事業対象国のうち、トルクメニスタンでの留学フェアは国の特殊事情から実施しないが、在外公館と連携して、日本語教育を推進している大学間交流協定校とその附属学校等において、日本語と日本文化に関するオンライン講義や出前授業を推進する。

アゼルバイジャンとアルメニアでは、在外公館と協力のうえ、2年に1度対面での留学フェアを実施する。モルドバは3年に1度の実施を目指す。なおベラルーシについては、ウクライナ戦争の影響を強く受けており、2026年4月現在、外務省海外安全情報の危険レベル3（渡航中止勧告）と4（退避勧告）が出されている。よって、現状では対面の留学フェアが開催できないことから、戦況の変化を見て活動の是非を判断する。

④ 就職セミナー

日本留学後のキャリアパスを示す目的で、大学訪問と留学フェアの活動内容に必ず日本就職セミナーの内容を組み込むこととする。これに加え、学校訪問・大学訪問と留学フェアに参加した高校生と大学生の保護者、また筑波大学が支援し把握している、日本に留学中のCIS対象国出身の学生に、日本での就職情報を提供することに特化した取り組みも別途行なっていく。日本国内で学ぶCIS対象地域出身の留学生たちに対して、日本で開催されている留学生向けの高度人材就職セミナーの情報を提供し、日本で働くことについての具体的なイメージを持ってもらう。一例として、3つのJICA日本人材開発センター（カザフスタン・キルギス・モンゴル）が主催し、筑波大学が協賛している「日本での高度人材就職セミナー」への参加を促す。

⑤ 大学間交流協定の拡大

CIS対象国からの留学生を増やす確実な方法の1つは、日本とCISの取組対象国との大学間交流協定の締結数を向上させることである。大学の国際化にあたっては、多様な国・地域からの留学生の受入れが重要であり、現在の日本の高等教育機関における留学生受入れにおいては、多様性の確保に課題があると考えている。中央アジア5カ国とコーカサス3カ国はいずれも日本との関係は良好であり、この地域で潜在的な留学生候補をリクルートし、日本

留学を後押しすることは、そのまま日本の大学における留学生の多様化と多彩な高度人材の育成・獲得につながり、留学生増加の基盤強化に貢献する。また、大学間交流協定の拡大は、単なる留学生数の増加にとどまらず、教育・研究の質的向上や人的交流の高度化・多様化にもつながる。こうした好循環を日本の高等教育機関全体に波及させることで、多様な背景を持つ人材の受入れと育成を通じて、国際競争力の強化に寄与することが期待される。これまでに筑波大学は、20年以上におよぶ中央アジア諸国の高等教育機関との教育・研究ネットワークを活かして、上智大学、東京外国語大学、東洋大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、和歌山大学他の協定締結の橋渡しを行なった。日本の大学にCIS対象国の大学との交流により高い関心を持ってもらうために、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスでの体験型の海外語学研修（ロシア語、現地語、ホームステイ、学生交流）や、現地日本関係機関での海外インターンシップの橋渡しについてもサポートする。交流協定締結を希望するCISの取組対象国の大学と日本の大学のマッチングを行い、プラットフォーム大学として橋渡し活動を積極的に推進する。

(2) 留学に関する情報収集・発信

留学に関する情報収集・発信の取組は、「現地の留学に関する情報収集と共有」と「現地及び国内関係者への発信」の2つに分かれる。

① 現地の留学に関する情報収集と共有

現地社会の基礎的情報、教育事情、海外留学・就職動向・日本留学・就職のニーズに関する情報を、在外公館、JICA、JETRO、日本センター、海外拠点、学校訪問先、大学訪問先、現地教育省、現地政府系奨学財団、帰国留学生などの関係者から直接収集するとともに、情報のアップデートを常に行う。特に、学校訪問、大学訪問や留学フェアでのアンケート調査および、学生・教員・教育機関の幹部・保護者らとの直接のやり取りは、最新の現地事情を得るうえでの貴重な情報源となる。ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージアにおける情報収集にあたっては、海外拠点を設置している利点を最大限活用する。すなわち、現地コーディネーターと拠点設置大学、コーディネーターの所属大学・学校との連携を密にし、現地教職員から年間を通じて絶えず情報収集を行う（**現地での情報収集と内容の更新**）。

現地での情報収集に加え、日本留学中のCIS地域の学生やCIS地域出身の大学教職員からも、現地の留学情報を収集するとともに、現地の特性に配慮した効果的なリクルーティング活動についてアイデアや助言を得る。筑波大学には2025年12月1日時点でCIS地域から85名の留学生が在籍している。彼らから留学経験についての学生たちの生きた声を積極的に収集し、説明会等のコンテンツ充実に活用する（**日本国内のCIS地域出身の留学生や大学教職員からの情報収集**）。

さらに、情報収集した内容は各国ごとに整理し、関係大学と現地日本関係機関の間で適宜

共有し、学校訪問、大学訪問、留学フェア、日本就職セミナー、現地入試、大学間の交流協定締結サポート、日本国内の大学ネットワーク強化等に係る取組を効果的に行うために活用する。中央アジア・コーカサス地域に関心を持つ日本の地方公共団体の外国人材支援組織（茨城県、奈良県、奈良市、横浜市、関西高度人材活躍地域コンソーシアム等）にも必要に応じて情報提供を行う（日本の関係大学・公的機関との情報共有）。

② 現地及び国内関係者等への発信

まず、現地社会に広く本事業の内容と意義を周知し、現地の優秀な若者の日本留学増加を図る。若年層に効果的にリーチアウトするために、インターネットやSNSを活用した情報発信に努める。本事業専用のホームページ、InstagramをはじめとしたSNSページを開設し、現役留学生や帰国留学生の声、活動ニュース、事業関連の各種イベント情報（留学フェア、就職セミナー）、日本文化にまつわる記事等を発信する。こうした発信を通じて、帰国留学生にも事業活動情報を共有することを目指す。次に、事業関連イベント（留学フェア等）の参加者に対する広報活動をメール等で行い、特に小中高生の保護者に向けた案内を丁寧に行う。これまでの事業経験からは、現地機関、現地関係者と連携した広報活動が情報発信に効果を発揮することが判明している。よって、現地の各在外公館、各JICA日本人材開発センター、筑波大学海外拠点、名古屋大学ウズベキスタン事務所、教育機関の日本語教員・日本研究者を通じて着実に発信する。とりわけ海外拠点設置国については、拠点設置大学、コーディネーターの所属大学・学校を通じて関係教育機関の教職員への案内を行い、日本留学情報を広く周知する（**現地日本関係機関の波及力を活かした発信**）。

また、文部科学省及びJASSOの担当職員、日本国内の本事業関係者（特に大学ネットワーク）への情報提供を定期的に行う。大学ネットワークをより効果的に機能させるために、国内大学向けの連絡協議会や個別の打合せを半年に一度程度行い、現地の大学の留学情報・就職の状況に関する最新情報を共有し、意見交換を行う。さらに、日本国内の留学生向けの高度人材就職情報イベントの案内を、日本に留学中のCIS地域出身の学生と大学教職員等に提供し、出身国・地域の人脈を生かした発信を推進する（**地域出身者の人脈を生かした発信**）。

上述の発信活動を継続的に実施していくことで、事業の質や効果を確認・適正化し、当該重点地域からの留学生数の増加につなげるとともに、早期の学生リクルーティング、日本留学・就職支援、帰国後のフォローアップという一連の支援の体系化と可視化を図る。

(3) 帰国留学生とのネットワーク構築

筑波大学は2000年以降、中央アジア・コーカサス諸国など旧ソ連地域との学術交流を推進し、旧ソ連全15カ国の最高学府及び有力大学と学術交流協定を締結した。2012年から2016年にかけて実施した世界展開力強化事業（ロシア）「ロシア語圏諸国を対象とする産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム」で、重点地域諸国から計317名の留学生を

受け入れた。この活動期間中、2015年にカザフスタン留学生同窓会とウズベキスタン留学生同窓会を発足させている。筑波大学の帰国留学生会の課題は、安定して活動を行っていくことである。まず本事業を通じて、帰国留学生会の活動活性化支援を行う。

オールジャパンの帰国留学生会の設立・運動は、長期的・永続的な組織運営が見込まれる在外公館主導によって行うことが必要であり、望ましい。在外公館の帰国留学生会は、国費留学生の卒業生・修了生を基盤としている。CIS地域では、2014年にウズベキスタン帰国留学生同窓会、キルギスMEXT帰国留学生会が、2018年に日本・アゼルバイジャン帰国留学生会が発足し、それぞれ在ウズベキスタン日本国大使館、在キルギス日本国大使館、在アゼルバイジャン帰国留学生会が管理・担当している。このような在外公館主導の帰国留学生会のイベントに、各大学の同窓会メンバーも参加できるようにすることが効率的であると思われる。現在、CIS地域の在外公館が主管する帰国留学生会は、アゼルバイジャン、アルメニア、ウズベキスタン、キルギス、ジョージア、トルクメニスタンの6カ国である。この中で、名古屋大学や筑波大学のような大学単位の帰国生会との連携・協力が可能か交渉・調整を行う。

(4) 広報・リクルーティング活動における協力深化

構築した帰国留学生とのネットワークと、前述の優秀な若者の日本留学へのリクルーティング活動とその広報における協力関係の深化を目指す。在外公館の帰国留学生会、名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部、ウズベキスタン留学生同窓会、筑波大学カザフスタン留学生同窓会等のCIS事業対象国の帰国留学生会を通じて、現地の学校訪問、大学訪問、留学フェア、日本就職セミナー等に日本留学経験者のOB・OGが同行し、当該事業の日本サポーターとして自身の留学体験談や、留学を目指す後進たちへの助言・メッセージを与える活動を推進する。また帰国留学生のキャリアパスの可能性を広げる機会として、日本就職セミナー等の情報をOB・OGとも共有する。

3 令和7年度の活動実績

前章では、本事業の目標を達成するために行う4つの取組を示した。本章では、今年度行った活動をその4つの取組に対応する形で詳述する。

(1) 優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進

本事業では、優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動の促進として、(i)学校訪問、(ii)大学訪問、(iii)留学フェア、(iv)就職セミナー、(v)大学間交流協定の拡大、の5つの活動を行うことを想定している。以下では、それに関して本年度行った活動について述べる。

① 学校訪問

2025 年度はウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、アルメニアの 4 カ国において、個別の学校（小・中・高校、インターナショナルスクール、日本語学校）を対象とし、全体で 13 校を訪問、延べ 434 人に対して日本留学に関する説明会を行った。以下、4 カ国それぞれについての実施状況を詳述する。

(i) ウズベキスタン

2025 年度ウズベキスタンにおいては 8 校を訪問し、延べ 182 人に対して日本留学に関する説明会を行った。

2025/5/16(金) タシケント国立東洋学大学附属リツェイ

筑波大学がタシケントオフィスを設置しているタシケント国立東洋学大学の附属学校で、JICA ボランティアが日本語を教えているリツェイにて、JICA 職員と合同で、日本留学・就職説明会を実施した。

説明会参加者数：24 名

2025/5/19(月) JAPKOR 教育センター

日本語と韓国語を教える語学学校。生徒を対象に日本留学説明会を実施した。説明会には JICA 職員とともに、現地で大学職員として働く筑波大学 OB が同行した。

説明会参加者数：14 名



JAPKOR 教育センター入口

2025/5/20(火) Noriko 学級²¹

Noriko 学級はフェルガナ州の地方都市リシタンで、無料で日本語を教えている学校で

²¹ <https://sites.google.com/view/norikogakkyu?usp=sharing>

1999 年に日本人夫婦が設立、現在はナジロフ氏が校長を引き継いでいる。2004 年に JICA 草の根プロジェクトで校舎が作られ、これまで 5,000 人以上の幅広い年齢層の生徒が日本語を学んでおり、オンラインでの授業も開講している。生徒のレベルは高く、2024 年度は日本語弁論大会中央アジア大会優勝者を輩出した。

日本との交流としては、舞鶴市との交流があり、同市が Noriko 学級の修了生の京都職業能力開発短期大学校への進学を斡旋している実績がある。

ナジロフ校長の従兄弟は株式会社ニッポンドというコンサル会社を経営している。

2025/5/20(火) ドングンアカデミー

ドングンアカデミーは 1,000 人以上の生徒を抱える語学学校で、主に韓国語を教えており、生徒の多くは韓国へ進学する。約 50 人が日本語を学んでおり、JAPKOR 教育センターと同じウズベク人教員が日本語講師を務める。生徒を対象に日本留学説明会を実施した。説明会では JICA 職員とともに、現地で大学職員として働く筑波大学 OB が説明を実施した。説明会参加者数：22 名

2025/5/22(木) アンディジャン国立大学附属リツェイ

アンディジャン国立外国語大学で教鞭をとるママトハノフ・フモイ先生が過去に英語を教えていた。多くの生徒が IELTS6.0 以上を取得している。生徒を対象に日本留学説明会を実施した。説明会では現地で大学職員として働く筑波大学 OB による説明を行なった。説明会参加者数：44 名



アンディジャン国立大学附属リツェイ入口

2025/5/22(木) Sakura Education Center

Sakura Education Center は語学学校で、多くの生徒が IELTS7.0 以上を取得している。日本語を勉強しているのは約 40 人で、アンディジャンの送り出し機関「レイワ」と協力関係にあり、日本語学習者のほとんどは特定技能実習生として日本へ渡航する。

当センターマネージャーと意見交換の後、日本語学習者を対象として筑波大学 OB が日本留学説明会を実施した。

説明会参加者数：32 名

2025/5/24(土) 225 番学校

225 番学校は日本の小学生から高校生に相当する生徒が学ぶ学校で、5 月 16 日(金)に説明会を実施する予定であったが、予定の変更があり 5 月 24 日(土)の終業式後に日本留学説明会を実施する運びとなった。この学校は JICA ボランティア 2 名がそれぞれ日本語・数学を教えている。

終業式に参加し卒業生に対して、日本留学説明会およびタシケント国立東洋学大学に留学中の筑波大生による学生生活についてのプレゼンテーションを実施した。

説明会参加者数：29 名

2025/5/28(水) JLPT Master

JLPT Master は JLPT に特化した対策をする学校として 2024 年に開校され、タシケント国立東洋学大学、世界言語大学、世界経済外交大学などで日本語を学ぶ学生が、JLPT 対策のため学んでいる。現在 220 人（うち 100 人はオンラインで受講、地方の学生や日本居住の学生もいる）の生徒が勉強しており、タシケント国立東洋学大学や世界経済外交大学で日本語を学んだ 11 人の教員が教鞭をとっている。N1 レベルの授業は現在 30 人が受講している。

ルジマトフ・ダブロンジョン校長ほかと意見交換の後、生徒に対して日本留学説明会を実施した。説明会では、世界経済外交大学に留学中の一橋大学生にも日本での学生生活について話してもらった。

説明会参加者数：17 名

(ii) カザフスタン

2025 年度カザフスタンにおいては 1 校を訪問し、17 名に日本留学説明会および日本文化交流会を行った。

2026/3/17(火) 224 番学校

カザフスタンにおいて日本の小・中・高校に相当する、224 番学校にて 9 年生（日本の中学 3 年生に相当）を対象に留学説明会、日本文化交流会を行った。

本説明会は筑波大学多文化共修事業の一環で実施され、筑波大学から 6 名の学部生が参加し、日本人学生は折り紙を、カザフ人生徒はアシクという羊の骨を使った中央アジアの伝統的なゲームを互いに教え合った。

説明会参加者：17 名

(iii) キルギス

2025 年度キルギスにおいては 2 校を訪問し、延べ 206 人に説明会を行った。

2025/5/15(木) ビリムカナ日本語学校

ビシュケクリエゾンオフィスコーディネーターの伊藤広宣先生により、ビシュケク市内の私立学校であるビリムカナ日本語学校にて留学説明会を実施した。

説明会参加者：26 名

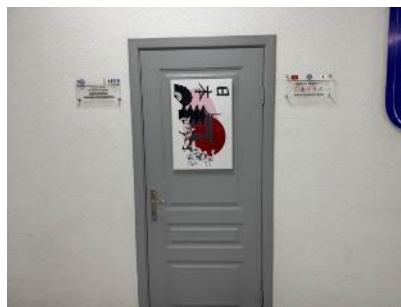
2025/11/12(水) ビシュケク建築建設マネジメントコレッジ

ビシュケク建築建設マネジメントコレッジには日本クラブが設置されている。このクラブは 1990 年代から日本と交流を続けており親日感情がとても強い。筑波大学 OG が同行し、説明会を実施した。

説明会参加者：180 名



日本との交流の歴史



日本クラブ入口

(iv) アルメニア

2025 年度アルメニアにおいては 2 校を訪問、延べ 29 人に説明会を行った。いずれの説明会でも、筑波大学に留学中のアルメニア人学生の留学生活を紹介するビデオメッセージを流した。

2026/2/17(火) IROHA センター

IROHA センターは、東北大学で学んだホジキャン・ルザン先生が経営する日本語学習機関で、小学生から社会人まで幅広い世代が日本語を学んでいる。例えば、アルメニア・アメリカ大学などの日本語講座がない大学や日本語講座があっても中国語を専攻しているロシア・アルメニア・スラヴ大学の学生も学んでいる。現在、筑波大学大学院に留学している N1 を取得しているアルメニア人留学生はこの出身である。

当センターにて、日本留学および筑波大学の説明のほか、筑波大学の英語プログラムである The Undergraduate Program of International Social Studies (TISS) について詳細な紹介を行った。

参加者数：9 名

2026/2/20(金) Shirakatsy Lyceum

この学校はアルメニア市内のインターナショナルスクールで、ほとんどの科目を英語で教えている。敷地内には付属幼稚園、中学校、高校がある。2024 年度は 107 名の卒業生のうち、80 人以上が海外の大学に進学。残りの学生もアルメニア・アメリカ大学やフランス系の大学に進学するなど生徒たちの海外志向は強い。

昨年は日本の大学に 2 名が合格し、1 名が武蔵野大学に進学した。日本の大学への進学情報は少なく、これまで学生が自分で探すほかなかったため、今回の説明会で日本留学、とりわけ英語のみで学位が取得できるプログラムを紹介したことは大きな意義があるだろう。

本稿では、アニ・テル＝ペトロシヤン進路カウンセラーによる校内案内の後、日本留学および筑波大学の説明のほか、筑波大学の英語プログラムである The Undergraduate Program of International Social Studies (TISS) について詳細な紹介を行った。

説明会参加者：20 名



高校生が学ぶ建物



学生の工作（日本の民家について）



進学実績（武蔵野大学の名も）



左から 2 人目が校長先生

② 大学訪問

2025 年度はウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージア、トルクメニスタン、アルメニアの 6 カ国において、個別の大学を対象とし、全体で 33 校を訪問、延べ 1,391 人に日本留学に関する説明会を行った。以下、6 カ国それぞれについての実施状況を詳述する。

(i) ウズベキスタン

2025 年度ウズベキスタンにおいては、17 校を訪問、736 人に対して日本留学説明会等を実施した。そのうち、12 校で筑波大学 OB または OG が同行し、自身の留學生活について語ってもらった。

2025/5/19(月) フェルガナ国立大学

フェルガナ国立大学は 1930 年に創立された、30,000 人の学生を有する東部大都市フェルガナの国立大学である。この大学では 2 年生以上の約 80 名の学生が日本語を勉強しており、2 名の教員が日本語を教えている。過去にフェルガナと福島との間で民間交流が行われていたが、現在では途絶えている。

国際交流部長と面会し意見交換の後、学生に対し留学説明会、JICA GROW プロジェクトによる就職説明会を実施した。

説明会参加者数：59 名



(左) フェルガナ国立大学正面入口

(右) 意見交換での集合写真

2025/5/19(月) フェルガナ工科大学

フェルガナ工科大学は 7 つの学部からなる総合大学で、ウズベキスタン国内の大学ランキングで 5 位、工学部門では 3 位に位置するハイレベルな大学である。同大学の学長が金沢大学、東京農工大学を訪問しているなど、大学間交流協定こそないものの日本の大学との交流を積極的に行っている大学である。大阪の企業ウィルテック²²と提携をしており、日本語を習得した学生が同社を通じて日本に派遣されている。

ママシディコヴィチ・ノディルベク国際学部長を表敬訪問し意見交換の後、学生に対して日本留学説明会、JICA GROW プロジェクトによる就職説明会を実施した。

説明会参加者数：100 名

²² <https://www.willtec.jp/company/overview/>



(左) フェルガナ工科大学正面入口



(右) 意見交換の様子



説明会の様子

(右) 日本語講師ライホン先生

2025/5/20(火) リシタン工科・公衆衛生学校

リシタン工科・公衆衛生学校は看護・介護を中心とする専門学校で、学生数は 1,500 人、うち 20 人が日本語を学んでいる。札幌の愛全会グループ²³により日本に派遣される介護士に向けて日本語講座が開講されており、日本人が講師を務めている。説明会当時、日本へ 4 人の派遣を予定している。同様の形式でドイツへ介護士が派遣されており、ドイツは給料が 1,500€/月ほどと高いため人気がある。

説明会参加者数：77 名



リシタン工科・公衆衛生学校入口

²³ <https://www.aizenkai.or.jp/>



看護・介護実習用の設備

2025/5/20(火) フェルガナ医科大学

フェルガナ医科大学は 2022 年に開校した新しい大学で、学生数は 2,500 人、そのうち 4,5,6 年生は他大学から編入している。授業はウズベク語グループ、ロシア語グループに分かれて実施されている。学生からの要望のもと、学長決定で日本語の講座が開講されており、現在 7 つのグループに分かれた 105 人が日本語を勉強している。教鞭をとっているのは過去 JICA シニアボランティアで日本語を教えていた経験を持つ日本人である。

なお同大学の教員には、広島大学大学院で学んだ若手の先生が在籍している。

説明会参加者数：23 名



フェルガナ医科大学正面入口

2025/5/21(水) アンディジャン国立大学

アンディジャン国立大学は 1931 年に創立され、14,000 人の学生を擁し、60 以上の学部、30 以上の大学院プログラムを持つ、規模の大きな大学である。海外との交流も盛んで、現在ヨーロッパ、ロシア、マレーシア、韓国、トルコをはじめとする 20 以上の大学と大学間交流協定を締結しており、マレーシアには 10 人の交換留学生を派遣している。

外国語としては英語、ドイツ語、韓国語、トルコ語などが教えられているが、日本語は教えられていない。韓国語についてはコロナ禍の影響で韓国国際協力団（KOICA）のオフィスが閉鎖され、オンラインでのみ講義が提供されている。また韓国語は韓国留学・就職が前提で開かれており、新たに外国語を開講する場合目的をもって新設したいという希望があ

る。

バフティヨルジョン・アクバラリエフ学長、ハサノフ・イルヨスベク国際部長と意見交換の後、学生に対する日本留学説明会を実施した。

説明会参加者数：49 名



(左) アンディジャン国立大学正面入口

(右) 学長（左）・国際部長との意見交換の様子

2025/5/21(水) アンディジャン国立外国語大学

アンディジャン国立外国語大学では 2022 年より日本語科目が開設され、現在 16 人（1 グループ）が日本語を勉強している。2025 年 9 月からは 2 グループでの開講を検討しており、今後日本の大学との交流拡大を希望している。

トシュトノフ・ソイブジョン副学長（教育担当）、ハイルツロ・コディオロフ国際部職員、ママトハノフ・フモイ日本語講師と意見交換の後、学生に対する日本留学説明会を実施した。

【説明会参加者数】51 名



(左) アンディジャン外国語大学入り口

(右) 副学長（教育担当）



敷地内の看板。学べる言語が一覧となっている（一番下に日本語）

2025/5/23(金) ナマンガン外国語大学

ナマンガン外国語大学は 2,600 人の学生を擁する。2022 年に現在の場所にキャンパスが移転した。都市部から離れた場所に位置するが、現在この地区には各大学がキャンパスを作り、ナマンガンの学術拠点となりつつある。現在 21 人が日本語を学んでおり、全員が N4 を取得している。

なおこの大学には過去 MEXT 奨学生として筑波大学に留学していた日本留学修了生が英語講師として勤務している。

ルトフラエフ・プラットホン副学長（教育担当）、ラヒモワ・ニゴラホン国際部長、バコエフ・ナウルズジョン日本語講師と打ち合わせ後、学生に対して日本留学説明会を実施した。
説明会参加者数：39 名



（左）ナマンガン外国語大学入口

（右）副学長、国際部長、日本語の先生との打ち合わせ後の集合写真



大学内図書館

2025/5/23(金) ナマンガン国立大学

ナマンガン国立大学は 1942 年に設立された総合大学で、10 の学部を有し、近年医学部も新設された。学生数 18,000 人で、教員数は 674 人、教職員数は 2,000 人である。キャンパスの広さは 5.5 ヘクタールでそのうち 2 ヘクタールは緑地である。

2025 年 9 月から韓国語が教えられる予定だが、日本語が開講される予定はない。

学生に対して日本留学説明会を実施した。

説明会参加者数：26 名



ナマンガン国立大学入口

2025/5/26(月) ヌクス国立教育大学

ヌクス国立教育大学は幼稚園・小中高の先生を養成する大学である。過去に日本語の講座を開講していたが、担当をしていた教員が他大学へ移ったため現在開講されていない。

トゥルドيوف・イジムベト副学長（科学・イノベーション担当）、クルバンバエフ・A・ジャボット外国語学部長と意見交換後、学生に対して日本留学説明会を実施した。

【説明会参加者数】65 名



（左）ヌクス国立教育大学外門



（右）ヌクス国立教育大学正面入口



副学長、外国語学部長との意見交換の様子

2025/5/26(月) カラカルパク国立大学

カラカルパク国立大学は 1976 年に設立され、2026 年に開学 50 周年を迎える。既にドイツ、韓国、中国、トルコの大学とは交流協定を締結しており、学生の行き来がある。韓国・

中国については奨学金が充実しているが、それでも日本・日本語に興味を持つ学生が増えており、現在 100 人以上が日本語を勉強している。教員はタシケント国立東洋学大学で日本語を学んだウズベク人教員 2 名が務めている。

ヌリムベトフ・チムル副学長（国際担当）、国際部長との意見交換の後、学生に対して日本留学説明会を実施した。なお、意見交換の際には、現在のウズベキスタン農業大臣は日本で博士号を取得しており、日本語が堪能であることを背景に、カラカルパク農業大学を筆頭にウズベキスタン各地の農業大学で日本語講座が開講されだしているという情報提供を受けた。

説明会参加者数：63 名



（左）カラカルパク国立大学入口



（右）副学長、国際学部長ほかとの集合写真

2025/5/28(水) タシケント国立経済大学

タシケント国立経済大学は 1931 年に設立された中央アジア初の経済大学で、45,000 人の学生を擁する。以前は JICA ボランティアによる日本語講座が開講されていたが、現在は派遣が途絶え閉講している。ただし日本に興味のある学生は一定数おり、Japan Digital University (JDU) などで独自に勉強している学生がいる。

アブドゥラフマノヴァ・グルノラ副学長（Science activity and innovation 担当）と意見交換の後、学生に対して日本留学説明会を実施した。説明会においては、筑波大学国際公共政策学位プログラムの修了生であるミラキロワ・ファティマ氏（現在、世界経済外交大学国際部職員）に自身の留学体験を話してもらった。

【説明会参加者数】 47 名



（左）タシケント国立経済大学入口



（右）副学長との意見交換の様子

2025/5/29(木) タシケント国立東洋学大学

タシケント国立東洋学大学は 2005 年から筑波大学と大学間交流協定を締結しており、2007 年には同大学内に筑波大学タシケントオフィスを設置している。現在日本の大学とは 16 大学と交流協定を結んでいるが、交流実態があるのはそのうち 8 つである。

タシケント国立東洋学大学では現在 550 人が日本語を学んでおり、13 人の日本語教員が教鞭をとっている。

ハルムルザエヴァ・ナディラ日本学部長を中心に意見交換の後、日本語学習者に対して日本留学説明会を実施した。同大学の事情として、奨学金なしでの日本留学は難しいとの指摘があり、それを受けて主に本事業の奨学金枠をはじめとする、日本で受給可能な奨学金に関して情報提供を行った。

説明会参加者数：10 名



(左) ナディラ日本学部長 (左)

(右) 菅野玲子先生記念図書館

2025/11/6(木) 世界経済外交大学

タシケントにて、筑波大学と大学間交流協定を締結している世界経済外交大学で日本語学習者に対し留学説明会を実施した。説明会では、ミラキロワさんに留学体験談を話してもらった。

参加者：16 名

2026/2/2(月) プハラ国立大学歴史・法学部

イスマイロフ・ムロド准教授（人文社会系）により、筑波大学 NipCA プロジェクトに関する説明会を実施した。説明会には学部 3・4 年生の学生に加え、研究者および大学院生が参加した。説明会の後、日本の大学における教育手法を紹介する目的で、英語による国際関係論の模擬授業を実施した。

説明会参加者：38 名

2026/2/4(水) サマルカンド国立大学

イスマイロフ准教授により、筑波大学の概要および NipCA プロジェクトの主要な目的について紹介を行った。説明会には主に学部 3・4 年生の学生が多数参加し、応募条件や選考手続きに関する具体的な質問が相次いだ。説明会終了後は、21 世紀型能力、いわゆる「4 つの C (Communication、Collaboration、Critical Thinking、Creativity)」の重要性についての模擬講義を実施した。

説明会参加者：48 名

2026/2/6(金) タシケント国立法科大学

イスマイロフ准教授により、筑波大学の概要および NipCA プロジェクトの主要な目的について紹介を行った。説明会には主に学部 3・4 年生の学生が多数参加し、応募条件や選考手続きに関する具体的な説明を行った。説明会終了後は、「日本と世界 (Japan & the New World Order)」をテーマとした短時間の模擬授業を実施した。授業は少人数グループによる協働学習を取り入れた双方向型形式で行われ、学生同士の意見交換を促進する構成とした。授業後には質疑応答および活発な討論が行われ、学生の高い関心と積極的な参加姿勢が確認された。

説明会参加者：15 名

2026/2/9(月) フェルガナ国立工科大学 (FSTU)

イスマイロフ准教授により、FSTU の学部 3・4 年生を対象として筑波大学の概要および NipCA プロジェクトの主要な目的について紹介を行った。紹介の後、「なぜ日本で理工系分野を学ぶのか (Why study technical sciences in Japan?)」をテーマとした意見交換を行い、学生との間で活発な討議が行われた。

説明会参加者：10 名

(ii) カザフスタン

2025/4/16(水) ナザルバエフ大学

令和 7 年 4 月 16 日に、カザフスタン・アスタナに位置するナザルバエフ大学にて、対面とオンラインとのハイブリッド形式での留学説明会を実施した。対面では 11 名、オンラインでは 5 名の合計 16 名が説明会に参加した。

(iii) キルギス

2025 年度キルギスにおいては、6 校を訪問、274 人に対して日本留学説明会等を実施した。そのうち、3 校で筑波大学 OG が同行し、自身の留學生活について語ってもらった。

2025/5/21(水) キルギス・ロシア・スラヴ大学

伊藤先生により、キルギス・ロシア・スラヴ大学人文学部にて、留学相談会を実施した。
説明会参加者：6 名

2025/7/1(火) キルギス総合大学

伊藤先生により、キルギス総合大学国際関係東洋学部のナリーザ・ドゥイシェノワ上級講師と学生 3 人に日本留学説明を実施した。
説明会参加者：3 名

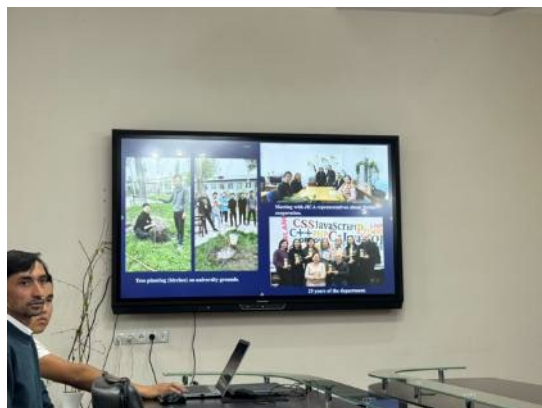
2025/9/2(火), 23(火) 教育現代情報テクノロジー大学

9 月 2 日に、伊藤先生により、クバエヴァ・ファチマ学長、ボルコワ・スベトラナ医学専門学校長に筑波大学・日本留学の説明を行い、その後学生 9 人に対して日本留学説明会を実施した。

9 月 23 日には同大学にて学生 146 人に対して日本留学説明会を実施した。
説明会参加者：155 名

2025/11/12(水) キルギス工科大学

キルギス工科大学では教職員を対象として留学説明会を実施した。同大学では 2024 年まで JICA ボランティアが活動しており、日本への関心が大きい。



キルギス工科大学での説明会

2025/11/13(木) オシュ国立大学

地方で最大規模のオシュ国立大学を訪問した。オシュ国立大学は学生 50,000 人、教職員 3,500 人を擁する大規模の大学で、外国の大学との協定も約 400 締結している。QS ランキングでは中央アジアの大学の中で 13 番目に位置し、地域の中でハイレベルな大学である。筑波大学とオシュ国立大学で 2026 年度に大学間交流協定を締結する予定（2026 年 1 月に締結）で、活発な学生交流を行う方針に関して議論を行った。その後同大学の学生、教職員

に対して留学説明会を実施した
説明会参加者：45 名



オシュ国立大学副学長表敬訪問

2025/11/14(金) トクトママトフ国際大学

オシュからジャララバードへ移動し、トクトママトフ国際大学での留学説明会および副学長への表敬訪問を行った。トクトママトフ国際大学では第二言語で日本語を選択することが可能で、2025 年現在約 40 人が日本語を勉強している。この大学が設置されているマナス市では他に、ジャララバード国際大学でクラブ活動として日本語が教えられている。そこには 3 人の日本語教師が在籍しており、その内ひとり日本人である。日本語を学んだ学生は 3 ヶ月のインターンに送られる。

説明会参加者：65 名

(iv) ジョージア

2025/12/12(金) イリア国立大学

説明会参加者：15 名

(v) トルクメニスタン

2025 年度トルクメニスタンにおいては、5 校を訪問、286 人に対して日本留学説明会等を実施した。そのうち、4 校では筑波大学留学経験者である大使館のゼイネップ職員が同行した。

2025/10/13(月) 国際人文開発大学

Arslan Charyyev 国際関係部長、ドウレトワ・ニャジック先生と意見交換をした後、学生に対して日本留学説明会を実施した。

筑波大学の教職員の他、大使館から須藤展啓二等書記官、ゼイネップ職員が同行した。

説明会参加者数：27 名



日本語教室のある建物

2025/10/13(月) アザディ記念国立世界言語大学

学生に対する日本留学説明会および東洋学科長、日本語講師 7 名（国際交流基金から派遣されている岩井ゆふ先生含む）と昼食をとりながらの意見交換を行った。

アザディ記念国立世界言語大学は 13 の外国語を勉強することができる外国語大学で、4,000 人が学んでいる。最も人気のある言語は英語である。

筑波大学の教職員の他、大使館から須藤二等書記官、ゼイネップ職員が同行した。
説明会参加者数：62 名



外観



東洋学科長

2025/10/13(月) オグズ・ハン工科大学

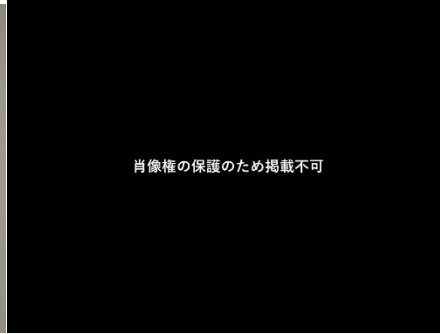
オグズ・ハン工科大学では全員が日本語必修である。

学生に対する日本留学説明会を行い、その後講座長の Gurdova Lachyn 先生をはじめとする日本語の先生方と図書室で懇談を行った。

筑波大学の教職員の他、大使館から須藤二等書記官、ゼイネップ職員が同行した。
説明会参加者数：118 名



先生手作りのひらがな表

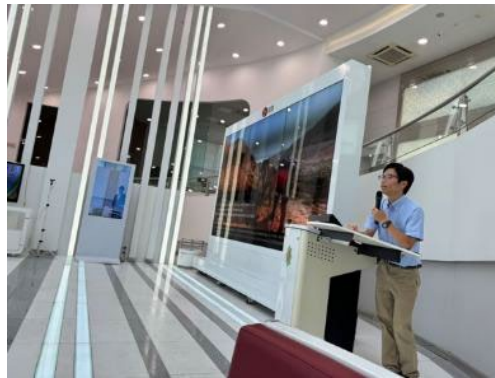


日本語の教室

2025/10/14(火) カカエフ記念国際石油ガス大学

学生に対する日本留学説明会および、田中康平准教授（生命環境系）による模擬授業を実施した。説明会終了後は大学内の地質博物館にて田中准教授と地球科学研究者の交流が行われた。

説明会参加者：30 名



模擬授業

2025/10/14(火) 外務省附属国際関係大学

外務省附属国際関係大学では 49 人が日本語を勉強している。

学生に対する日本留学説明会および、田中准教授による模擬授業を実施した。

説明会参加者：40 名

(vi) アルメニア

2025 年度アルメニアにおいては、3 校を訪問、73 人に対して日本留学説明会等を実施した。いずれの大学の説明会でも、現在筑波大学に留学しているアルメニア人学生のビデオメッセージを流した。

2026/2/17(火) エレバン国立大学

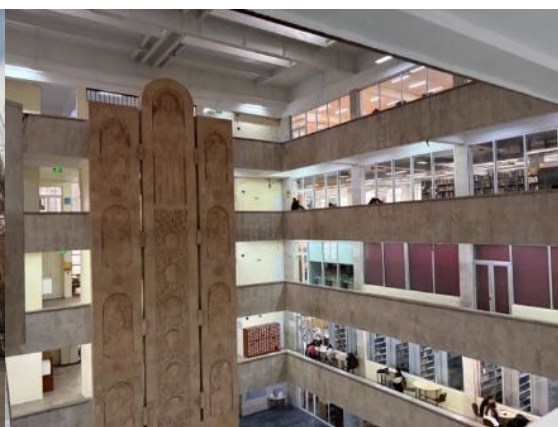
エレバン国立大学は 1919 年創立のアルメニア最古で最大の大学で、学部生数約 13,000 人、大学院生数約 2,000 人である。全世界で約 230 のパートナー校があり、日本では北海道大学と龍谷大学の 2 大学と協定を結んでいる。同大学には日本語学科はないものの、第二外国語として日本語が教えられている。

日本語学習者を中心にした、学生に対する日本留学説明会を実施した。説明会には教職員として、ナバサルジャン・シュザナ准教授・Head of Department of Diplomatic Service and Communication およびバラヤン・ザルヒ先生（日本語講師）も出席した。

説明会参加者：36 名



エレバン国立大学正面



大学図書館

2026/2/18(水) ブリュソフ名称エレバン国立言語社会科学大学

この大学は日本語を教え始めてまだ数年で、日本語を専攻とする学生は 5 人、副専攻とする学生は 30 人だが、2026 年 9 月からさらに増える予定とのことである。日本語はホワニシヤン・アストギク先生とババヤン・タテフ先生（文化学園大学を卒業し、京都大学でも勉強した）の 2 名が中心となって教えている。まだ日本との大学間交流はなく、現在協定先を探している。

説明会参加者：17 名

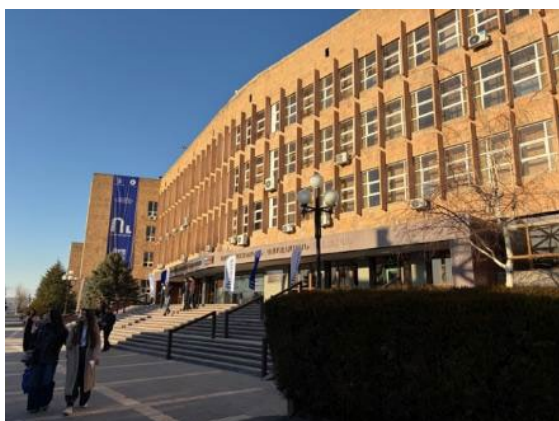
2026/2/20(金) ロシア・アルメニア・スラヴ大学

ロシア・アルメニア・スラヴ大学は現在、京都大学と筑波大学の 2 校と協定を結んでおり、現在、京都大学には 2 名、筑波大学には 3 名が留学している。

ホワニシヤン先生を中心に非常勤 4 人の先生が日本語を教えている（うち一人はホジキヤン先生）。

留学説明会后、梶山准教授により日本映画に関する模擬授業が行われた。

参加者数：20 名



大学正面入口



協定大学一覧



右から 3 人目が国際協力部イリーナさん



日本映画の模擬授業

③ 留学フェア

本年度は、留学フェアを2回、3か国において実施した。以下では、それぞれについて、実施概要、全体スケジュール、各日の実施状況について述べる。

(i) 日本留学フェア in ウズベキスタン（対面）²⁴

【実施概要】

1. 日程： 令和7年11月1日（土）～11月5日（水）
（サマルカンド：11月1日 13:30～17:30／タシケント：11月3日 9:30～17:00／
ブハラ：11月5日 9:30～13:30）
2. 場所：ウズベキスタン・サマルカンド市、タシケント市、ブハラ市
サマルカンド…サマルカンド国立大学 Physics Faculty Hall
タシケント…ウィンダム・タシケント SilkRoad Hall
ブハラ…ブハラ国立大学 1階ロビー、Conference Hall
3. 主催：ウズベキスタン日本センター（UJC）
共催：名古屋大学ウズベキスタン事務所
筑波大学「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業（CIS 地域）」
後援：在ウズベキスタン日本国大使館
ウズベキスタン共和国 高等教育・科学・イノベーション省
ウズベキスタン日本語教師会
協力：独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）
4. 現地参加大学・機関：大阪大学、京都先端科学大学、慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス、総合研究大学院大学、筑波大学、東京大学、東洋大学、名古屋大学、名古屋経済大学、立命館アジア太平洋大学、在ウズベキスタン日本大使館、ウズベキスタン日本センター（10 大学・2 機関）
5. 資料参加大学・機関：長崎大学（資料参加）、JASSO（資料参加）（1 大学・1 機関）

【全体スケジュール】

11月1日(土) 来場者：173 名

13:30～17:30 「2025 日本留学フェア in Samarkand」	
13:00	開場、来場者受付開始
13:30～13:50	開会式（MC：UJCブハラ分室長） ・来賓ご挨拶 - Mr. Ahatov Akmal, サマルカンド国立大学 副学長 ・主催者挨拶 - 岩崎寛央 ウズベキスタン日本センター 共同所長 ・参加校紹介
13:50～17:30	各大学・機関のプレゼンテーション、および各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》 13:50-14:10 筑波大学 14:10-14:30 京都先端科学大学

²⁴ 出典：ウズベキスタン日本センター(UJC) (2025). 『2025 日本留学フェア in Uzbekistan 実施報告書』

	14:30-14:50 名古屋経済大学 14:50-15:10 名古屋大学 15:10-15:30 大阪大学 15:30-15:50 総合研究大学院大学 15:50-16:10 東洋大学 16:10-16:30 立命館アジア太平洋大学 16:30-16:50 東京大学 16:50-17:10 慶應義塾大学
17:30	終了、会場片付け

11月2日(日) サマルカンド観光・タシケントへの移動日

11月3日(月) 来場者：633名

9:30～17:00「2025 日本留学フェア in Tashkent」	
9:30	開場、来場者受付開始
10:00～10:25	開会式（MC：Abdulxay Abdulkarimov） ・来賓ご挨拶 - Mr. Kongratbay Sharipov ウズベキスタン共和国 高等教育・科学・イノベーション大臣 - 平田 健治 駐ウズベキスタン日本国特命全権大使 ・主催者挨拶 - 岩崎 寛央 共同所長 ウズベキスタン日本センター ・参加校紹介
10:30～17:00	各大学・機関のプレゼンテーション、および各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》（英語） 10:25-10:55 筑波大学 10:55-11:25 東京大学 11:25-11:55 慶應義塾大学 11:55-12:25 京都先端科学大学 ～休憩～（休憩中に茶道のデモンストラーションを実施） 12:55-13:15名古屋経済大学 13:15-13:45名古屋大学 13:45-14:15日本学生支援機構（ビデオ上映） 14:15-14:45大阪大学 14:45-15:15総合研究大学院大学 15:15-15:45東洋大学 15:45-16:15立命館アジア太平洋大学

	16:15-16:35 留学生体験談
17:00	終了、会場片付け
18:00~20:00頃	懇親会（夕食） Restaurant Mahalla90

11月4日(火)

8:00頃～16:30頃 グループごとに学校訪問		
A-理系高校	B-文系高校	C-大学
・ 京都先端科学大学 ・ 名古屋大学	・ 慶應義塾大学 ・ 東洋大学 ・ 東京大学 ・ 立命館アジア太平洋大学	・ 筑波大学 ・ 大阪大学 ・ 総合研究大学院大学
8:30 Wyndham Tashkent発		8:00 Wyndham Tashkent発
9:00 - 10:30 ・ Academic Lyceum of Turin ・ Polytechnic University in Tashkent (Engineering and tech-focused lyceum)	9:00 - 10:30 ・ Academic Lyceum of Tashkent State University of Oriental Studies	8:30 – 9:30 ・ Uzbekistan State World Languages University
11:00 - 12:30 ・ Specialized school named after Al-Khorazmiy (Math and IT specialized high school)	11:00 – 12:30 ・ Lyceum of Uzbekistan State World Languages University.	10:15 – 11:15 ・ New Uzbekistan University
		11:45-12:45 ・ IMC FH Krems University of Applied sciences, TSUE
昼食 Kamolon Restaurant		
14:30 - 16:00 ・ Specialized school named after Abu Ali ibn Sino	13:40 - 16:00 ・ Academic Lyceum of University of World Economy and Diplomacy	14:30 - 16:30 ・ Central Asian University
19:40 Bukhara行きフライト発（Silk Avia Flight No 805）		
21:10 Bukhara空港着		

11月5日(水) 来場者：1,072名

9:30~13:30 「2025 日本留学フェア in Bukhara」	
9:00	開場、来場者受付開始

9:30~9:50	開会式（MC：UJCブハラ分室長） ・来賓ご挨拶 -アディロフ・バフティヨル・アリシェロヴィチ氏 — ブハラ州副知事（青年政策、社会開発、精神的・啓発活動担当） -ハミドフ・オビジョン・ハフィゾヴィチ氏 — ブハラ国立大学学長） ・主催者挨拶 - 岩崎 寛央 共同所長 ウズベキスタン日本センター ・参加校紹介
9:50~12:30	各大学・機関のプレゼンテーション、および各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》（英語） 9:50-10:10 筑波大学 10:10-10:30 大阪大学 10:30-10:50 東洋大学 10:50-11:10 立命館アジア太平洋大学 11:10-11:30 東京大学 11:30-11:50 慶應義塾大学 11:50-12:10 京都先端科学大学 12:10-12:30 名古屋大学
13:30	終了、会場片付け
14:15~15:15	昼食（市内レストラン）：昼食をかねて留学フェアの振り返り
16:10	ブハラ空港発（Silk Avia No. 804）
17:20	タシケント空港着

【各日の実施状況】

ウズベキスタン留学フェアは2023年よりウズベキスタン日本センター（UJC）が主催している。2025年は昨年と同様、UJCが主催、そして筑波大学「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業（CIS 地域）」が共催で、昨年に開催されたタシケント・ブハラだけでなく、新たにサマルカンドを加えた3都市で実施した。

11月1日(土)

ウズベキスタン初日の留学フェアはサマルカンド国立大学の Physics Faculty Hall で開催された。当日はユネスコ年次総会がサマルカンド市で開催されており、交通規制や会場周辺の混雑など、運営上の制約があったほか、総会期間中、現地の学校では授業がオンライン化されたなど困難な状況があったものの、173名の来場者を迎えることができた。

2025年は現地参加校数が10校と昨年と比べ1校増え、各大学のプレゼンテーションの

時間は 20 分ずつ割り振られた。プレゼンテーションと並行して、来場者の相談に個別に応じる個別の大学・機関ブースが設置された。各ブースには簡単な通訳をして現地語での対応を行うサポートスタッフが配置された。前述のとおり、ユネスコの年次総会が開催されていた影響で来場者数こそ伸び悩んだものの、各ブースそれぞれの大学が提供するプログラムの情報を求め学生たちが熱心に質問をする姿が見られた。

11 月 2 日(日)

移動日・サマルカンド市内観光。

11 月 3 日(月)

2 日目の留学フェアはタシケント市内のホテル、ウィンダム・タシケントにて行われた。市内中心のホテルということで、来場者の年齢層は幅広く、大学生のみならず高校生やその親、大学院進学を検討する社会人など来場者の属性は多岐にわたった。来場者数は合計で 633 名と 2024 年（約 700 名）を下回ったが、ホール内にはほとんど常に来場者がいて情報収集を行っており、会場は大いに賑わっていた。

各大学のプレゼンテーションや個別ブースのほか、留学経験者による体験談発表や休憩時間に茶道のデモンストレーションが行われた。単に留学先の検討だけでなく、日本文化の理解促進にもつながり、タシケントにおける日本留学のブランドイメージ強化に大きく貢献した。

また今回は UJC によりフェアの様子が YouTube でライブ配信された。同時接続数は常時 5～10 名程度だった。

11 月 4 日(火)

この日は参加大学・機関が 3 つのグループに分かれてそれぞれタシケント市内および近郊の理系高校、文系高校、大学を訪問した。

各校の参加者数は学校によってばらつきがあり、おおむね 20 名から 80 名程度であったが、いずれの会場でも学生の関心は高く、発表後には積極的に質問が寄せられた。中には、前日の留学フェアにも来場していた学生が再び訪れ、より詳細な説明を求める姿も見られた。

11 月 5 日(水)

最終日のウズベキスタン留学フェアはブハラ国立大学の Conference Hall にて開催された。地方都市での開催としては最大規模となり、来場者数は 1,072 名に達した。会場は約 700 名を収容できる大ホールであったが、当日は立ち見が出るほどの盛況で、ウズベキスタ

ン国内における日本留学への関心の広がりを実感する場となった。昨年度の来場者数は522名であったため、来場者は倍以上に増加している。来場者の中には、開催地であるブハラ国立大学の学生が多く含まれていたとみられ、参加者の中には、すでに日本への留学を強く志望している学生だけでなく、「自分の大学でイベントがあったので参加してみた」という比較的軽い動機で来場した学生も見受けられた。しかしながら、ブースでの対話やプレゼンテーションを通じて、日本の大学制度や奨学金の仕組みに初めて触れた学生も多く、結果として日本留学への新たな関心を喚起する機会となった。

【当日の様子】



11/1 参加機関ボード

(ii) 日本留学フェア in カザフスタン・キルギス（対面）

【実施概要】

1. 日程：令和7年11月6日（木）～11月12日（水）
（カザフスタン・アルマトイ：11/7～11/8／キルギス・ビシュケク：11/10～11/11）
2. 場所：カザフスタン・アルマトイ市、キルギス・ビシュケク市
アルマトイ…ナルホーズ大学（11月7日）、Beta High School（11月7日）、Grand Tien Shan Hotel（ホール"Alatau"）
ビシュケク…キルギス国立大学（11月10日）、Bilimkana（11月10日）、ビシュケク国立大学（11月11日）、Silk Road International School（11月11日）
3. 主催：カザフスタン日本人材開発センター（KJC）（カザフスタン）
キルギス共和国日本人材開発センター（KRJC）（キルギス）
共催：筑波大学「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業」
4. 現地参加大学・機関：慶應義塾大学、筑波大学、東京国際大学、新潟薬科大学、法政大学、早稲田大学、ISI日本語学校
5. 資料参加大学・機関：

【全体スケジュール】

11月7日(金) 来場者：250名

9:30～18:00「2025 日本留学フェア in アルマトイ」	
9:00	ナルホーズ大学での留学フェア 開場、来場者受付開始

9:30~10:00	開会式 ・ナルホーズ大学学長 挨拶 ・JASSOプレゼンテーション ・カザフ人学生による留学経験談
10:00~14:00	各大学・機関のプレゼンテーション、および各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》（英語） 10:00-10:20 法政大学 10:20-10:40 慶應義塾大学 10:40-11:00 新潟薬科大学 11:00-11:20 東京国際大学 11:20-11:40 早稲田大学 11:40-12:00 ISI日本語学校 12:00-12:20 筑波大学 12:20-12:30 在カザフスタン日本国大使館（国費留学生についてのプレゼンテーション） 12:30-12:40 Q&Aセッション
14:30	Beta High School へ移動
15:00~18:00	各大学ブースでの個別相談

11月8日(土) 来場者：300名

12:00~17:00「2025 日本留学フェア in アルマトイ」	
12:00	Grand Tien Shan Hotel での留学フェア 開場、来場者受付開始
12:00-12:30	開会式 ・カザフスタン日本センター 挨拶 ・JASSOプレゼンテーション ・在カザフスタン日本国大使館プレゼンテーション ・カザフ人学生による留学経験談
12:30~15:10	各大学・機関のプレゼンテーション 《プレゼンテーション》（英語） 12:30-12:50 法政大学 12:50-13:10 慶應義塾大学 13:10-13:30 新潟薬科大学 13:30-13:50 東京国際大学 13:50-14:10 早稲田大学 14:10-14:30 ISI日本語学校 14:30-14:50 筑波大学

	14:50-15:10 Q&Aセッション
15:10~17:00	各大学ブースでの個別相談

11月10日(月)

9:30~17:00「2025 日本留学フェア in ビシュケク」	
8:30~9:00	キルギス国立大学でのフェア準備
9:00~9:30	キルギス国立大学 学長表敬訪問
9:30~9:55	開会式 ・キルギス国立大学学長 ・在キルギス日本国大使館のプレゼンテーション
9:55~13:30	各大学・機関のプレゼンテーションおよび各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》（英語） 9:55-10:15 慶應義塾大学 10:15-10:35 筑波大学 10:35-10:55 新潟薬科大学 10:55-11:15 早稲田大学 11:15-11:35 法政大学 11:35-11:55 ISI日本語学校 12:00-12:20 Q&Aセッション
15:30~17:00	Bilimkana（私立学校）での説明会

11月11日(火)

10:00~17:50「2025 日本留学フェア in ビシュケク」	
9:00~9:30	ビシュケク国立大学でのフェア準備
9:30~10:00	ビシュケク国立大学 学長表敬訪問
10:00~10:05	ビシュケク国立大学学長 挨拶
10:05~13:30	各大学・機関のプレゼンテーションおよび各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》（英語） 10:05-10:25 慶應義塾大学 10:25-10:45 筑波大学 10:45-11:05 新潟薬科大学 11:05-11:25 早稲田大学 11:25-11:45 法政大学 11:45-12:05 ISI日本語学校 12:05-12:30 Q&Aセッション
14:30	Silk Road International Schoolへの移動

16:00~16:10	Silk Road International School校長 表敬訪問
16:10~16:20	留学説明会 準備
16:30~18:00	各大学・機関のプレゼンテーションおよび各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》（英語） 16:30-16:40 慶應義塾大学 16:40-16:50 筑波大学 16:50-17:00 新潟薬科大学 17:00-17:10 早稲田大学 17:10-17:20 法政大学 17:20-17:30 ISI日本語学校 17:30-17:50 Q&Aセッション

【各日の実施状況】

11月7日および8日にカザフスタン・アルマトイで、その後移動日を1日挟み11月10日および11日にキルギス・ビシュケクで、カザフスタン日本人材開発センター（KJC）およびキルギス日本人材開発センター（KRJC）の主催、筑波大学「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業（CIS 地域）」の共催により、2025年カザフスタン・キルギス留学フェアを実施した。

11月7日(金)

カザフスタン1日目午前中の留学フェアはナルホーズ大学にて開催された。昨年同様各大学・機関によるプレゼンテーションおよび個別ブースでの留学相談を行い、来場した学生や生徒に対して日本留学の魅力を発信した。午後はBeta High Schoolにてプレゼンテーションおよび留学相談を行った。KJCによればナルホーズ大学での説明会の参加者には250名が、Beta High Schoolでの説明会には60名が参加した。

11月8日(土)

カザフスタン2日目の留学フェアは、アルマトイ中心部に位置するGrand Tien Shan Hotelにて行われた。KJCによればこの日のフェアには300人の来場があり、ウズベキスタン・タシケントのホテルで開催されたフェア同様、大学生に限らず幅広い世代の来場者が見られた。

プレゼンテーション会場と個別ブースは同じ部屋に配置され、各大学のプレゼンを聞いた後そのまま個別ブースに質問に来るなど、来場者は思い思いに日本留学に関する情報を収集していた。

11月9日

カザフスタン・アルマトイからキルギス・ビシュケクへの移動日。

11月10日

キルギス 1 日目の留学フェアはビシュケク市内のキルギス国立総合大学にて行われた。留学フェアの開始に先立って、参加大学および主催の KRJC によりキルギス国立総合大学のドグドウルベク・チョントエフ学長への表敬訪問が行われ、日本側からフェア会場提供についての感謝が述べられたほか、チョントエフ学長から日本・キルギスの大学間交流が拡大することを歓迎する旨を伝えられた。その後大学内の大ホールにてフェアが開催された。

午後は Bilimkana 学校を訪問し各大学によるプレゼンテーションを行った。Bilimkana 学校はビシュケク市内の私立学校で、英語に加えて、中国語、日本語、ドイツ語、フランス語など複数の外国語教育を行っている。

11月11日

キルギス 2 日目は日中にビシュケク国立大学で留学フェアを、16 時からシルクロードインターナショナルスクールで個別留学相談を行った。ビシュケク国立大学では各大学によるプレゼンテーションと個別ブースでの留学相談を実施した。シルクロードインターナショナルスクールでは他の会場と同様、各大学によるプレゼンテーションを行う予定であったが、機材のトラブルがあり個別ブースでの留学相談のみ実施した。授業の一環で参加する生徒が多かったようで、将来の進学先についてのワークシートを記入しながら各大学のブースを回っていた。大学進学前の高校生たちに日本留学に関する情報を提供できたことは、今後数年単位でのキルギスからの留学生数増加につながるだろう。

【当日の様子】



11/10 キルギス国立大学表敬訪問

④ 就職セミナー

2025 年 5 月にウズベキスタンにおいて実施した説明会の一部では、JICA GROW プロジ

ェクトの職員に同行してもらい、日本留学説明会に合わせて日本での就職事情の紹介を行ってもらった。

(i) 2025/5/16(金) タシケント国立東洋学大学附属リツェイ

日本留学説明会と併せて、JICA GROW プロジェクトより日本での就職に関する説明を実施した（詳細は 3, (1), ①, (i), 2025/5/16(金)タシケント国立東洋学大学附属リツェイの項目を参照）。

(ii) 2025/5/19(月) フェルガナ国立大学

日本留学説明会と併せて、JICA GROW プロジェクトより日本での就職に関する説明を実施した（詳細は 3, (1), ②, (i), 2025/5/19(月)フェルガナ国立大学の項目を参照）。

(iii) 2025/5/19(月) フェルガナ工科大学

日本留学説明会と併せて、JICA GROW プロジェクトより日本での就職に関する説明を実施した（詳細は 3, (1), ②, (i), 2025/5/19(月)フェルガナ工科大学の項目を参照）。

⑤ 大学間交流協定の拡大

CIS 地域とのネットワーク強化として、筑波大学は下記の 7 校と大学間交流協定を締結した。

国名	大学名	締結日
ウズベキスタン	サマルカンド国立大学	2025年10月
	タシケント国立経済大学	2025年10月
	サマルカンド国立医科大学	2025年10月
キルギス	オシュ国立大学	2026年1月
ジョージア	トビリシ国立大学	2025年10月
	イリア国立大学	2025年12月
	バトゥミ国立大学	2025年10月

(2) 留学に関する情報収集・発信

① 現地の留学に関する情報収集と共有

(i) 2025/5/9(金) キルギス日本センター(KRJC)、キルギス天才日本学校との意見交換

キルギス天才学校のジベク氏、アイペリ氏、JICA キルギス日本センター(KRJC)の岩井淳武氏が筑波大学を訪問し、打ち合わせを行った。打ち合わせの中で、キルギス天才日本学校と筑波大学の交流を進め LOI を結ぶこと、本年度中に日本語・日本文化講座を 3 回程度行うことを確認した。また KRJC は例年インターン生を受け入れているが、今後は日本の大学からの受け入れを増やしたいと考えており、筑波大学をはじめ上智大学・神戸外国語大学・京都外国語大学・早稲田大学(政経)・天理大学などからの学生の受け入れ可能性を模索している。

(ii) 2025/5/27(火) JICA ウズベキスタン日本センター (UJC) との意見交換

ウズベキスタン日本センター (UJC) とのオンラインでの打合せを行った。打合せの主

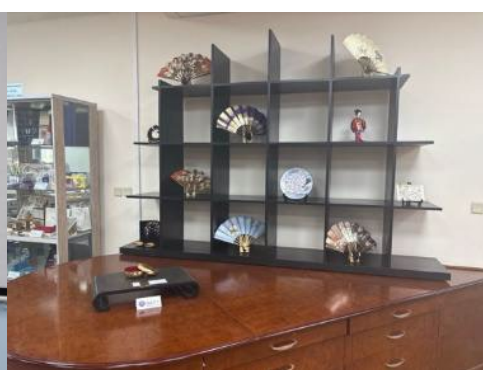
な内容としては、UJC より現地事情の提供、10 月 30,31 日に開催予定の第 5 回ウズベキスタン学長会議および 11 月開催予定のウズベキスタン留学フェアについての意見交換であった。

UJC からの参加者は、岩崎所長、野口義明 JICA 専門家、アザモフ・ウルグベク JICA 日本センター共同所長、ショフルフ ブハラ分室長の 4 名で、名古屋大学ウズベキスタン事務所のエルムロドフ・エルドルジョン所長も参加した。

筑波大学からは、5 月 16 日(金)から 5 月 27 日(火)にかけての地方都市を含めたウズベキスタン教育機関訪問で得た知見として、地方都市でも日本語教育機関が増えており、今後、アンディジャン・ナマンガン・フェルガナ等の地方都市での留学フェア開催も高い効果が見込まれる旨を報告した。



(左) 岩崎所長 (左)



(右) UJC 入口。左下は今回贈答の品。

(iii) 2025/6/4(水) JICA 人間開発部との打ち合わせ

JICA のプッタポン・ポラブツ氏 (人間開発部)、高橋課長、渡邊専門官と、「JICA 国別研修事業タジキスタン」における筑波大学の連携可能性について意見交換を行った。打ち合わせの中ではまず JICA から事業の紹介を受け、筑波大学からは類似事例としてトルクメニスタンとの交流プログラムを紹介し、タジキスタンの大学との交流可能性について意見を述べた。

上記意見交換をもとにした JICA によるプログラム案を検討 (7 月 25 日)、2026 年 2 月の実施を決定した。

(iv) 2026/1/31(土) ブハラ国立大学の現地視察

イスマイロフ准教授 (人文社会系) によりブハラ国立大学の視察を行った。

ブハラ国立大学は 10 月 30,31 日の第 5 回日本ウズベキスタン学長会議にて筑波大学と一対一での学長間面談を行っており、今後の交流として農学分野での研究協力を希望している。そこで具体的な研究協力・学生交流のための情報収集として、イスマイロフ准教授により学生寮の視察、自然科学・農業工学部温室等の視察を行った。

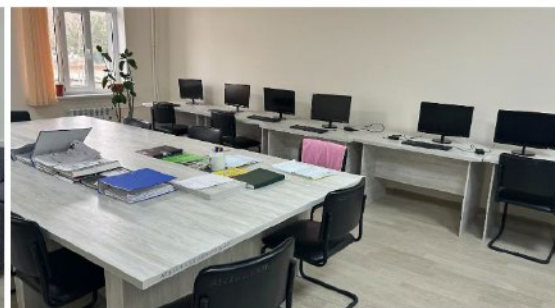
学生寮はブハラ市中心部のキャンパス内に位置し、近代的な設備を備えている。留学生向け施設は独立した建物に設置されており、セキュリティ体制も整備され、快適な生活環境が確保されている。居室は原則として2名まで入居可能であるが、多くの留学生は1名で利用しているとのことであった。共用施設としては、インターネット環境を備えた自習室、キッチン等が整備されている。視察においてインド・中国・ドイツからの留学生と面談をする機会があり、その結果筑波大学の学生宿舎と同等レベルであることが確認された。



宿舎外観



居室



(左上) 共用スペース、(右上) 自習室、(左下) キッチン、(右下) ランドリー

自然科学・農業工学部は、ブハラ市中心部から約10km離れた郊外に位置し、同地域には、ブハラ国立大学が所有する複数の農地が整備されており、学生や研究者が植物実験を行うための温室施設も併設されている。乾燥地帯に位置し、気候変動の影響を大きく受けるブハラの環境に適応した作物を開発するべく、研究活動に取り組む状況が確認された。また温室は規模こそ大きくないものの、適切に管理・運営されており、安定した研究環境が維持されている。2月3日(火)に同学部を再訪問し、農業・土壌学講座主任のウマロフ・オタベク

博士と面談を行った。



(左上) 自然科学・農業工学部キャンパス、(右上) ビニルハウス

2月2日(月)に同大学副学長であるジュラエフ・アブロール氏との面談を行った。2025年10月の学長会議を踏まえた筑波大学生命環境系との共同研究に関する意欲や、ブハラ国立大学における日本語・日本文化の関心の高さが示された。



イスマイロフ准教授とアブロール副学長の面談

ジュラエフ副学長との面談の後、筑波大学の大学院プログラム説明および模擬授業を実施した。その後、教学担当副学長であるジュマエフ・ルスタム博士と歴史・法学部長であるナモゾフ・ボビル博士との面談を行った。面談では、教育の国際化に対応した授業運営および指導力向上を目的とした教員研修に関する共同研究の可能性ならびに、教員研修プログラムの共同実施について協議を行った。ブハラ国立大学側は、カリキュラムの国際化を今後さらに推進していく方針を示している一方で、教員の専門性および教育実践力のさらなる向上が課題となっていることが共有された。そのため、筑波大学との連携を通じて、教員の指

導力向上および教育手法の高度化を図りたいとの意向が示された。本協議を通じて、教員研修分野における協力体制の構築および体系的な研修プログラムの開発に向けて、今後さらに具体的な検討を進めていくことで合意した。



(上段) ジュマエフ博士との面談、(下段) ナモゾフ博士との面談

(v) 2026/2/2(月) ウズベキスタン日本センターブハラ支部訪問

イスマイロフ准教授がウズベキスタン日本センターブハラ支部を訪問し、現地事情の収集を行った。UJC ブハラ支部は、タシュケント本部の分室として設立された機関であり、ブハラ国立大学とは組織上は独立して運営されている。しかしながら、本センターは日本・ウズベキスタン両政府間協定に基づいて設立された機関であることから、ブハラ国立大学はその活動を全面的に支援しており、施設の提供などを通じて、日本語教育および日本文化普及活動を支えている。マフムドフ所長からは、ブハラを訪問する多くの日本人学生が、同センターのボランティアおよび講師陣から生活面・学習面において支援を受けていることについて説明があった。また、同所長は、今後の筑波大学とブハラ国立大学との協力関係の発展に対して強い支持を表明し、両大学間の連携強化に向けて、UJC としても積極的に協力する意向を示した。



(左) イスマイロフ准教授とシャフルフ所長の面談、(中央、右) ブハラ支所の様子

(vi) 2026/2/4(水)～5(木) サマルカンド国立大学の現地視察

イスマイロフ准教授がサマルカンド国立大学を訪問し、国際協力担当副学長であるアハトフ・アクマル博士との面談を行った。面談においては、同副学長から①筑波大学研究者とも国際研究費を活用した共同研究を展開したいこと、②地震学分野における連携を進めたいこと、③学生および教員の交流事業の推進、④NipCA プロジェクトの重要性が強調された。



アハトフ副学長とイスマイロフ准教授の面談

その後、心理・社会政治学部長であるムミノワ・ザリファ博士との打合せを行った。打合せにおいては、ムミノワ博士より教育学分野ならびに政治・社会研究分野における筑波大学研究者との連携に対する強い関心が見られた。特に、教員研修プログラムの共同実施および学生向けサマースクールの共同開催について意欲的な提案がなされた。また、同学部として、筑波大学の学生および研究者を積極的に受け入れ、短期留学における授業料免除や国際研究者宿舎での宿泊支援を含む、包括的な支援体制を提供する用意があることが表明された。



ムミノワ博士とイスマイロフ准教授の面談

2月5日(木)には国際学生寮の視察を行った。当該学生寮は数年前に建設された施設であり、キャンパス内の利便性の高い場所に位置している。建物は比較的新しく、近代的な設計となっており、キッチン、自習スペース等、学生生活に必要な設備が十分に整備されている。居室は原則として2名までの利用が可能な相部屋形式であるが、外国人留学生については、無料または割引料金により1人部屋として利用できる制度が設けられていることが確認された。



サマルカンド国立大学国際学生宿舍の様子

留学生用学生寮の視察後、同施設の近隣に所在する教員用宿泊施設を訪問した。当該施設は、短期および長期滞在の双方に対応可能な宿泊施設であり、大学間協定の内容に応じて、外国人教員に対して割引料金または無償で提供される制度が整備されている。建物は比較的新しく、室内設備や共用設備も充実しており、小規模なホテルのような快適な居住環境が整備されていることが確認された。



サマルカンド国立大学教職員宿舎の様子

(vii) 2026/2/6(金) タシケント国立法科大学の視察

イスマイロフ准教授がタシケント国立法科大学を訪問し、同大学国際協力部長であるウミロフ・フィトラット博士との面談、学生寮の視察を行った。

ウミロフ博士との面談では、同大学より、名古屋大学との緊密な連携関係を有している一方で、筑波大学との間においても、短期・長期の学生および教員交流プログラム、日本語教育プログラムを含む多様な形態での協力関係構築に強い関心があることが示された。



ウミロフ博士とイスマイロフ准教授の面談

その後、日本留学説明会および模擬授業を行った後、学生寮の視察を行った。学生寮は、TSUL キャンパスから約 9km 離れた「学生村 (Talabalar Shaxarchasi)」と呼ばれる地区に位置しており、タシケント市内の複数の国立大学の学生寮が集積するエリアに所在している。当該学生寮は比較的古い建物であるものの、近年改修工事が行われており、良好な居住環境が維持されていることが確認された。ウズベキスタン国内の他大学の学生寮と同様に、外国人留学生については原則として 1 人部屋の利用が可能である一方、多くの現地学生は相部屋で生活している状況である。キャンパスからは距離があるものの、設備面においては筑波大学の学生宿舎と同等水準であり、生活環境として十分に整備されていた。なお、通学には 50～60 分を擁することから、通学の利便性を重視し、多くの外国人学生は TSUL キャンパス周辺の民間アパートを利用する傾向があることが判明した。

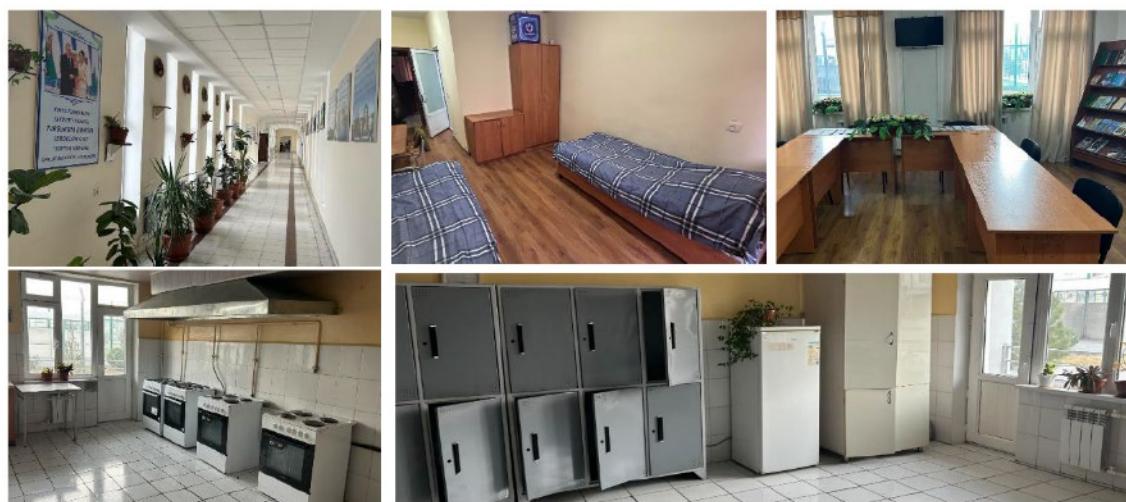


タシケント国立法科大学の宿舎の様子

(viii) 2026/2/7(土)～9(月) フェルガナ工科大学の視察

イスマイロフ准教授がフェルガナ国立工科大学（FSTU）を訪問し、国際プロジェクト・投資部長であるアブドゥラヒモフ・ラヴシャンベク氏との打合せ、学生寮および関連施設の視察を行った。

学生寮は、留学生については専用区画が設けられている一方で、現地学生との相部屋を選択することも可能となっている。当該学生寮は比較的古い建物であるものの、設備は適切に更新・整備されており、居住環境は筑波大学における標準的な学生寮と同程度であることが確認された。また、学生寮は FSTU キャンパス敷地内に立地しており、フェルガナ市内の住宅地域に位置し、市中心部から車で約 10 分の距離にある。



2月9日(月)には FSTU の国際協力部長であるイスマイロフ・ノディルベク氏と国際プロジェクト・投資部長アブドゥラヒモフ・ラヴシャンベク氏との面談および研究・イノベーション

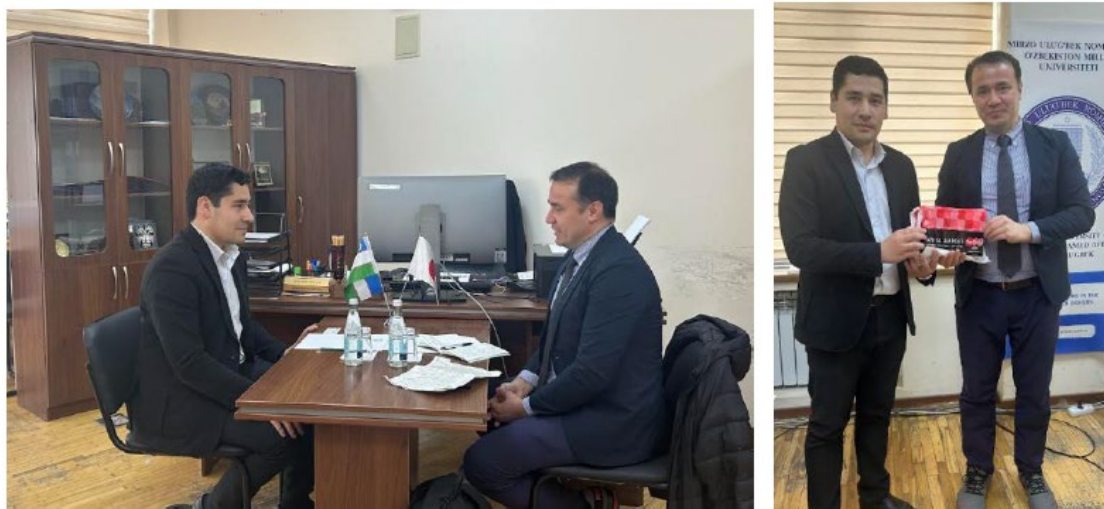
ション担当副学長であるダヴリャトフ・ショフルフ博士との面談を行った。前者の面談では、ウズベキスタンにおいて新たに実施予定の JICA プロジェクトの枠組みおよび筑波大学の参画可能性について協議を行い、後者の面談ではショフルフ博士より本プロジェクトが正式に承認され、実施段階に移行した後は、両大学間の協力関係をより一層活発化させていきたいとの期待が表明された。



(ix) 2026/2/10(火) ウズベキスタン国立大学訪問

イスマイロフ准教授がウズベキスタン国立大学 (National University of Uzbekistan: NUU) を訪問し、国際協力部長であるマダトフ・ジャヴロンベク氏および教育インフラ改革担当部長のナルジェフ・ノディル氏と面談を行った。マダトフ部長は筑波大学との連携に対して前向きな姿勢を示しており、新たな副学長の着任後に、具体的な連携方針および優先分野について協議を進める意向が示された。主な協力分野としては、Erasmus や JICA 等の国際助成事業を活用した共同研究プロジェクト、共同研究成果の国際学術誌への発信、ならびに教員・学生交流事業が挙げられた。

この日は試験期間中だったため、日本留学説明会の実施はできなかった。そのため、NipCA プロジェクトの説明資料と奨学金に関する資料をマダトフ部長に共有し、学内イントラネットを利用しての学生への周知を依頼した。



マダトフ部長とイスマイロフ准教授の面談

(x) 2026/2/11(水) タシケント国立医科大学訪問

イスマイロフ准教授がタシケント国立医科大学（Tashkent Medical Academy：TMA）を訪問し、研究・イノベーション担当副学長であるアジゾワ・フェルザ博士および国際協力部長ノディルベク氏と面談を行った。

TMA は中央アジア最大級の医科大学の一つであり、ウズベキスタンにおける医師および医学研究者養成の中核機関として重要な役割を担っている。創立から 105 年の歴史を有し、現在は 52 学部・学科および 40 の専門分野において約 3 万人の学生が在籍している。また、留学生数は 3,000 名を超えており、その約 60%はインドおよび南アジア諸国出身である。留学生向けには、多くの授業が英語で実施されている。

面談においては、本訪問を通じて、医学・医療分野における研究協力および人材交流の可能性が確認され、今後、組織的かつ継続的な連携体制の構築に向けた対応が求められることが明らかとなった。



② 現地及び国内関係者等への発信

(i) 2025/5/14(水) 釧路公立大学との打合せ

ロシア-ウクライナ間の戦争を背景に、釧路公立大学ではロシア語学習者の留学先が途絶えている。そこで新たな留学先候補として、中央アジアを検討しており、中央アジアに複数の拠点を持つ筑波大学への相談があった。釧路公立大学は新たにカザフスタンの大学との大学間交流協定を検討しており、アルマトイオフィスを活用したサポートを筑波大学から提案した。

(ii) 2025/6/30(月) 同志社大学・大阪公立大学との打合せ

同志社大学では2020年の新型コロナの流行、2022年のロシアによるウクライナ侵攻以来、ロシアへの海外派遣プログラムや交換留学が停止しており、学内のロシア語学習者600名の留学ニーズに対する受け皿を探していた。

大阪公立大学でも同様の状況があり、ロシア語学習者に対する現地実践の場を提供することが困難な状態であった。そこで、留学・交流先の選択肢として中央アジア・コーカサス地域を紹介し、利用可能なプログラムから交通・宿泊費などの現地の生活事情など、様々な事柄について情報交換を行った。

(iii) 2025/8 釧路公立大学とカザフ国際関係外国語大学との協定締結支援

本節(i)で述べた5月の相談を受け、カザフ国際関係外国語大学と釧路公立大学との協定締結支援を行った。

(iv) 2025/8 慶應義塾大学とアルファラビ・カザフ国立大学との協定締結支援

(v) 2025/12/6(土) 日本ロシア語教育学会での情報発信

2025年12月6日(土)に大阪大学箕面キャンパスにて日本ロシア語教育学会第5回研究集会・総会が開催された。白山利信教授、梶山祐治准教授、小山正伍が出席し、筑波大学の取り組みとして本事業を紹介し、出席大学に対して本事業を利用したCIS地域とのネットワーク形成を呼び掛けた。

参加大学・機関：大阪大学、関西大学、京都外国語大学、京都産業大学、神戸市外国語大学、上智大学、朝日出版社、日露青年交流センター

(vi) 2026/1/19(月) 名古屋経済大学との意見交換

名古屋経済大学を訪問し、佐分晴夫学長、阪倉章治教授（国際交流センター長）、市橋克哉特任教授、ウバイドゥラエフ・ダブロンベック准教授と面談した。面談では本事業の活動

を紹介し、特に 2025 年度に新設したサマルカンドリエゾンデスクのオールジャパンでの活用について議論をした。

(vii) 2026/3/2(日)～4(火)

サマルカンドリエゾンオフィスコーディネーターの佐藤萌先生より、関西大学の徳永昌弘教授をサマルカンドの 3 大学（シルクロード国際文化遺産観光大学、サマルカンド国立大学、サマルカンド外国語大学）に案内。

(viii) 2026/3/25(水) 立命館アジア太平洋大学との打合せ

立命館アジア太平洋大学を訪問し、アドミッションズ・オフィスの中川賢司課長補佐、政伶和氏、アロン・クワチ氏と中央アジアからの留学生獲得についての意見交換を行った。また昨年に引き続いてのウズベキスタン、カザフスタン・キルギス留学フェア参加を呼び掛けた。

(ix) 2026/3/26(木) 九州大学との打合せ

九州大学を訪問し、ロシア語教員である佐藤正則教授、ロシア語関係の教員である高橋沙奈美准教授、左近幸村准教授とロシア語圏留学に関する打合せおよび、同事業中東・北アフリカ地域担当である沖祐太郎准教授、芹澤寛子研究員と事業に関する意見交換を行った。意見交換においては、説明会の実施方法やフェアの開催、国内での情報収集についてなど、多岐にわたって情報交換を行った。

(3) 帰国留学生とのネットワーク構築

本年度は、各大学の、また各国の同窓会の分布状況等の調査を行うことで、来年度以降の本格的なネットワーク構築に必要な予備的活動を行った。

(4) 広報・リクルーティング活動における協力深化

① ウズベキスタン

(i) タシケント・サマルカンドでの大学間交流協定締結に向けての意見交換

【実施概要】

ダダバエフ・ティムール教授がウズベキスタン・タシケント、サマルカンドを訪問し、大学間交流協定の締結に向けての打ち合わせや意見交換を行った。

6 月 10 日から 11 日にかけて、サマルカンド国立大学とオンライン・対面での打ち合わせを行い、10 月筑波大学との大学間交流協定締結に向けて意見交換を行った。

訪問した教育機関・組織は下記のとおりである。

〈タシケント〉

- ・ UBS 大学 (6/7 (土))
- ・ タシケント国立経済大学 (6/7 (土)、6/13 (金))
- ・ 世界経済外交大学 (6/8 (日))
- ・ ウズベキスタン教育担当大臣 (6/8 (日))
- ・ ウズベキスタン日本センター (6/9 (月)、6/13 (金))
- ・ 世界経済外交大学 (6/9 (月)、6/10 (火))
- ・ ウズベキスタンメディア協会 (6/12 (木))
- ・ ウズベキスタン ElYurtUmidi 財団 (6/12 (木))
- ・ 世界経済外交大学学術会議委員会 (6/12 (木))
- ・ ESCAS Regional Conference (欧州中央アジア学会地域大会) (6/13 (金))

〈サマルカンド〉

- ・ サマルカンド国立大学 (6/10 (火)、6/11 (水))
- ・ サマルカンド外国語大学 (6/10 (火)、6/11 (水))

(ii) 2025/6/20(金) ウズベキスタンビジネス科学大学理事長の表敬訪問

ウズベキスタン科学大学理事長が、ウズベキスタン大統領府より日本の大学との交流を促されている中で、筑波大学に訪問し、科学・社会系の協力関係を構築したいという打診があった。

先方からはジュマエフ氏(ウズベキスタンビジネス科学大学理事長)、ママダリエフ教授、アブドライモフ氏、ラヒモフ氏が、筑波大学からは加藤光保副学長、白山利信人文社会系系長、ダダバエフ教授、梶山准教授、岩見早苗課長(国際室)が参加し、教員・研究者の派遣や共同教育プログラムに関しての意見交換を行った。



中央がジュマエフ教授



記念品の贈呈

(iii) タシケント・サマルカンド・フェルガナでの大学間交流協定締結に向けての意見交換

ダダバエフ教授がウズベキスタン・タシケント、サマルカンド、フェルガナを訪問し、大学間交流協定の締結に向けての打ち合わせや意見交換を行った。

(iv) 第5回日本ウズベキスタン学長会議への参加

【実施概要】

1. 日程：令和7年10月30日（木）～10月31日（金）
2. 場所：ウズベキスタン・サマルカンド市
3. 主催：ウズベキスタン共和国高等教育・科学・イノベーション省
4. 日本側幹事校：名古屋大学
5. テーマ：知識と社会をつなぐ：イノベーションと人材開発への学際的アプローチ
Bridging Knowledge and Society: Interdisciplinary Approaches to Innovation and Human Development

【全体スケジュール】

10月30日(木)

第5回日本・ウズベキスタン学長会議	
9:00	開場、署名調印式 サマルカンド国立大学（MoU） タシケント経済大学（MoU） 世界経済外交大学（LoI） タシケント国立東洋学大学（LoI） サマルカンド国立医科大学（MoU）（10月31日(金)に調印）
9:45～10:35	開会式 《ウェルカムスピーチ》 - サマルカンド国立大学学長 《来賓挨拶》 - ウズベキスタン共和国 高等教育・科学・イノベーション省 大臣 - 日本 文部科学省副大臣 - 世界経済外交大学 学長 - 在ウズベキスタン日本特命全権大使 - 名古屋大学 総長
10:35～11:00	写真撮影・コーヒーブレイク
10:30～13:30	各大学・機関の事例発表（プレゼンテーション） 《プレゼンテーション》 11:00-11:10 ブハラ国立大学

	11:10-11:20 ウズベキスタン高等教育・科学イノベーション省 11:20-11:30 名古屋大学 11:30-11:40 ウズベキスタン国立大学 11:40-11:50 筑波大学 11:50-12:00 サマルカンド国立大学 12:00-12:10 エル・ユルトウ・ウミディ財団 12:10-12:20 東洋大学 12:20-12:30 タシケント国立東洋学大学 12:30-12:40 名古屋経済大学 12:40-12:50 フェルガナ工科大学 12:50-13:00 東京農工大学 13:00-13:10 タシケント国立法科大学 13:10-13:25 JSPS
13:30～15:00	ランチタイム
15:00～15:30	筑波大学サマルカンドリエゾンデスク開所式
15:30～17:30	ワーキンググループセッション

10月31日(金)

第5回日本・ウズベキスタン学長会議	
9:00	開場
9:15～11:45	ネットワーキングセッション（1対1の大学間面談） 9:15～9:30 サマルカンド国立大学 9:30～9:45 シルクロード国際観光・文化遺産大学 9:50～10:00 ブハラ国立大学 10:00～10:40 フェルガナ工科大学 10:40～10:45 Scientific and Educational Practical Center under the Agency for Knowledge and Qualifications Assessment under the Ministry of Higher Education 10:45～11:15 タシケント国立東洋学大学 11:15～11:30 タシケント国立法科大学 11:30～11:45 ウズベキスタン国立大学
12:00～13:30	昼食
以下は筑波大学不参加	
14:00～16:00	エクスカーショ

【各プログラムの実施状況】

本会議の枠組みの中で、事業の新たな拠点であるサマルカンドリエゾンデスクの開所式を行った。開所式では筑波大学の永田学長より、サマルカンドリエゾンデスクは Study in Japan の拠点として広く日本の大学全体で活用していく方針が示された。

会議では日本側の大学とウズベキスタン側の大学間で、下記の合計 10 の大学間協定が締結された。

- ・金城学園大学とマームーン大学
- ・工学院大学とサマルカンド国立大学
- ・筑波大学とサマルカンド国立大学
- ・筑波大学とタシケント経済大学
- ・筑波大学とサマルカンド国立医科大学
- ・筑波大学と世界経済外交大学
- ・筑波大学とタシケント国立東洋学大学
- ・名古屋経済大学と世界経済外交大学
- ・名古屋経済大学とシルクロード国際観光・文化遺産大学
- ・山形大学とタシケント国立東洋学大学

(v) 2025/10/30(木) サマルカンドリエゾンオフィスの開設

2025 年 10 月 30 日(木)に第 5 回日本ウズベキスタン学長会議の中でサマルカンド国立大学に筑波大学サマルカンドリエゾンオフィスを開設した。2 月より同じ市内に位置するシルクロード国際観光・文化遺産大学に勤める佐藤先生にコーディネーター業務を委嘱し、本格的な活動を開始した。

(vi) 2026/2/6(木), 9(日), 16(日)サマルカンド国立大学での日本語授業の実施

佐藤先生より、サマルカンド国立大学の学生約 20 名に対して諸学者向けの日本語授業を開講した。

② カザフスタン

2026/3/23(月)Farabi International school キャンパスツアー

筑波大学の Campus-in-Campus(CIC)協定校であるアルファラビ・カザフ国立大学のカディコワ・サマル先生の引率により、カザフスタン・Farabi International School から生徒 17 名が筑波大学のキャンパスツアーに参加した。野村名可男准教授（生命環境系）による筑波大学英語プログラムの説明の他、日本学生支援機構の“Study in Japan²⁵”のウェブサイト・オンライン学習プラットフォームの JV-Campus²⁶を紹介し、日本留学、日本語・文化の

²⁵ 日本学生支援機構, “Study in Japan”, (<https://www.studyinJapan.go.jp/ja/>)

²⁶ 筑波大学国際局 (JV-Campus 事務局), “JV-Campus”, (<https://www.jv-campus.org/>)

情報発信を行った。

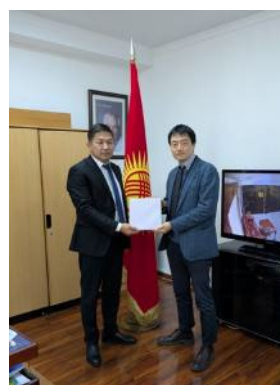
③ キルギス

(i) 2025/11/12(水) ビシュケク国立大学学長との意見交換

ビシュケク国立大学には 2024 年 9 月より本事業の活動として、筑波大学ビシュケクリエゾンデスクを開設し、現地コーディネーターを配置している。この日はディルダエフ学長、国際部長および日本語学科長と今後のデスクの活用方針やデスクを利用したビシュケク国立大学と日本との関係深化について意見交換を行った。



学長・国際部長との打合せ



ディルダエフ学長（左）

(ii) 2025/11/13(木) オシュ国立大学副学長への表敬訪問



オシュ国立大学副学長表敬訪問

(iii) 2025/11/14(金) トクトママトフ国際大学副学長への表敬訪問

トクトママトフ国際大学副学長を表敬訪問し、同大学における日本語学習状況などについての情報収集を行った。

(iv) 2025/11/15(土) バトケン国立大学教員・学生の個別相談

オシュ国立大学の一室を借り、バトケン市在住の高校生 2 名とバトケン国立大学教員の

スルマンベトフ氏に留学説明と個別相談を実施した。バトケン国立大学には日本語学科は無いものの、クラブ活動で日本語を教えており 54 人が参加している。

④ タジキスタン

(i) JICA タジキスタン国別研修の実施

【実施概要】

6 月の JICA 人間開発部との打合せを受けて、タジキスタン国別研修「高等教育・研究機関若手研究者育成」を実施した。本研修は 2025 年度から 2027 年度までの 3 か年を予定しており、初年度は様々な高等教育・研究機関を訪問し知見を得て、次年度以降の若手研究者育成のための研修計画（アクションプラン）を策定することを目標とした。

研修期間は 2 月 3 日(火)から 10 日(火)で、3 日から 5 日と 10 日は筑波大学・JICA 筑波での研修、6 日から 9 日は東京・京都・滋賀での研修とした。

研修にはタジキスタンの大学・研究機関関係者 13 名が参加し、JICA タジキスタンナショナルスタッフと研修管理員兼通訳の 2 名が同行した。

研修参加者は講義・視察等に参加する中で研究手法の導入や共同研究、また大学間での学生交流にも意欲があり、本研修を契機としてタジキスタンの大学と日本の大学間での協定締結等関係深化が期待される。

【全体スケジュール】

2025年度タジキスタン国別研修		
2月3日(火)	10:00～12:00	JICAによるブリーフィング（滞在の注意事項等）
	13:30～14:00	イントロダクション・研修コース内容説明
	14:00～15:00	講義：JICA研修事業、高等教育におけるJICAの支援等 発表者：ボラブツ・プッタポン氏（JICA人間開発部）
	15:00～16:00	カントリーレポート発表（参加者間の当地の課題等共有）
	16:00～16:30	講義：筑波大学の紹介・日本留学説明 発表者：梶山祐治准教授（筑波大学）
2月4日(水)	10:00～10:50	つくば機能植物イノベーション研究センターT-PIRC農場訪問 対応者：福田直也教授（筑波大学）
	11:10～12:00	つくば機能植物イノベーション研究センター遺伝子研究部門訪問 対応者：渡邊和男教授（筑波大学）
	13:00～14:30	講義：日本の大学教育・研究制度,日本における大学の役割・機能 発表者：坪内孝司特命教授（筑波大学）
	15:30～16:30	AIST-Cube見学

2月5日(木)	10:00～11:30	サイバーデザイン社見学
	13:00～14:30	講義：本邦大学の国際協力・海外事業展開、タジキスタン及び中央アジア地域における本邦大学の取組・事業展開 発表者：白山利信教授（筑波大学）
	15:00～16:30	筑波大学附属中央図書館見学
2月6日(金)	9:30～12:00	早稲田大学訪問 対応者：山本知之教授（早稲田大学）
	14:00～16:00	日本銀行金融研究所貨幣博物館見学
2月7日(土)	10:00～12:00	京都大学総合博物館見学
2月8日(日)	終日	休日
2月9日(月)	10:00～11:30	立命館大学訪問・講義 対応者：林宏明教授、黒川清登教授（立命館大学）
	11:30～12:15	講義：如何に農村の経済を活性化させるか？滋賀県甲賀市信楽町の「まちづくり」から学ぶ 発表者：黒川清登教授（立命館大学）
	12:15～13:20	甲賀市内の大小屋訪問
	13:30～14:05	信楽伝統産業会館 Traditional Craft Center of Shigaraki 視察
	14:15～15:10	甲賀市役所黄瀬文化財作業所視察
2月10日 (火)	10:00～12:15	タジキスタンの課題検討・タジキスタンにおける日本型高等教育システム導入、産学連携の基本計画作成（方針ペーパー）
	13:15～14:30	発表会・講評
	14:30～15:00	閉会式

【各日の実施状況】

JICA 研修事業、高等教育における JICA の支援等

2月3日(火)14:00～15:00 に実施。プッタポン氏により、JICA の事業に関する講義が行われた。



プッタポン氏による講義

カントリーレポート（発表）

2月3日(火)15:00～16:00 に実施。研修にあたる前提知識の共有として、各研修員によってそれぞれの専門やタジキスタンの現状に関して下記の様な内容で発表が行われた。

1. 自己紹介

（所属機関、役職、主な業務内容）

2. タジキスタンにおける現状

以下のようなテーマのうち、ご自身の業務に関連するもの

- ・ 高等教育・研究
- ・ 国際関係・国際協力
- ・ デジタル技術、教育システム等（該当する場合）

3. 現在直面している主な課題（2～3点）

- ・ 日常業務の中で感じている課題
- ・ その課題が生じている背景

4. 本研修に期待すること

- ・ 日本で学びたい内容
- ・ タジキスタンでどのように活かしたいか



Mr. GHAFUROV Parviz の発表



Ms. SHUKUROVA Musavvara の発表

筑波大学の紹介・留学説明

2月3日(火)16:00～16:30 に実施。筑波大学の梶山准教授より、筑波大学についての概要説明と留学に関する情報提供を行われた。

つくば機能植物イノベーション研究センター T-PIRC 農場訪問

2月4日(水)10:00～10:50 に実施。同センター長の福田直也教授にセンターの役割やゲノム編集技術の概要や活用事例等について講義が行われた。



福田教授による講義の様子

つくば機能植物イノベーション研究センター 遺伝子研究部門訪問

2月4日(水)11:10～12:00 に実施。同センター副センター長の渡邊和男教授に講義が行われた。なお、研修員の Ms. SHUKUROVA Musavvara は筑波大学博士課程在学中に同教授の研究室に所属していた。



渡邊教授による講義の様子



温室前での集合写真

日本の大学教育・研究制度,日本における大学の役割・機能

2月4日(水)13:00～14:30 に実施。筑波大学先端教学推進機構長の坪内考司特命教授により日本の大学制度、法整備や筑波大学での教育事例について講義が行われた。



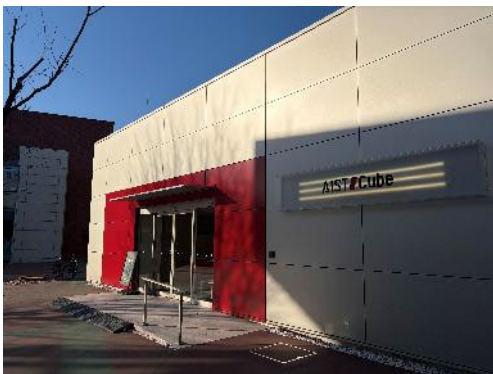
坪内特命教授による講義の様子



質疑応答

AIST-Cube

2月4日(水)15:30～16:30 に実施。産業技術総合研究所の展示施設「AIST-Cube」の見学を行った。日本語でのツアーガイドがあり、水野研修管理員によりロシア語通訳された。



AIST-Cube 外観

サイバーダイン社見学

2月5日(木)10:00～11:30 に実施。筑波大学発のベンチャー企業であるサイバーダイン社を見学し、ロボットスーツ HAL の展示の見学や動作体験を行った。

本邦大学の国際協力・海外事業展開、タジキスタン及び中央アジア地域における本邦大学の取組・事業展開

2月5日(木)13:00～14:30 に実施。筑波大学の白山教授により日本の国際協力の歴史や文部科学省・大学の取り組みについて講義が行われた。



白山教授による講義の様子

筑波大学附属中央図書館見学

2月5日(木)15:00～16:30 に実施。図書館ボランティアガイドによりロシア語でのツアーを行われ、図書館内のミーティングスペースや貴重図書書架、ロシア・タジキスタンに関する書架などの見学を行った。



図書館入口での説明



ラーニング・スクエア

早稲田大学訪問・意見交換

2月6日(金)9:30～12:00 に実施。早稲田大学理工学術院電子物理システム学専攻の山本知之教授により、早稲田大学の紹介やタジキスタンとの共同研究に関する講義および早稲田大学西早稲田キャンパスツアーが行われた。



山本教授による講義の様子

早稲田大学構内での集合写真

東京視察 貨幣博物館

2月6日(金)14:00～16:00 に実施。日本銀行金融研究所貨幣博物館を訪問した。



貨幣博物館入口

京都大学総合博物館

2月7日(土)10:00～12:00 に実施。京都大学総合博物館を訪問した。

立命館大学 講義

2月9日(月)に実施。立命館大学薬学部の林宏明教授、経済学部の黒川清登教授により講義を、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの紹介および地方創生に関する大学連携の事例紹介を行われた。

林教授の講義ではタジキスタンとの共同研究事例やタジキスタンで採取できる薬の原料となる植物について紹介された。また立命館大学の紹介として留学生との交流の場である Beyond Border Plaza、学生企業支援の Startup Lounge、産学官連携の拠点であるインキュベータを見学した。

黒川教授のプログラムでは、滋賀県甲賀市信楽町の観光資源活用の事例として、大小屋・信楽伝統産業会館での信楽焼に関する見学、甲賀市役所黄瀬文化財作業所でのラベンダー畑とその活用事例の見学を行った。見学には、甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課の渡部圭一郎氏、甲賀市雲井自治振興会事務局長の金谷英三氏、委員長の水野藤志夫氏、地域マネージャーの澤寛子氏が同行した。



林教授による講義の様子



立命館大学構内見学



大小屋での食事



黄瀬文化財作業所でのラベンダー活用事例紹介

タジキスタンの課題検討・方針ペーパー発表

2月10日に実施。研修のまとめとして各研修参加者が方針ペーパーを作成し発表をした。



研修員の発表



JICA 人間開発部高橋課長による終了証授与

⑤ トルクメニスタン

(i) 2025/10/10(金) 在トルクメニスタン大使館との打合せ

在トルクメニスタン大使館の保坂英輝参事官、須藤二等書記官と、2025年10月10日

(金)から 14 日(火)にかけてのトルクメニスタン大学訪問・田中准教授によるコイテンダグの現地調査等についての打合せを行った。

現在トルクメニスタン国内の日本語学習者は約 14,000 人で、大使館職員を除いた現地在住日本人は 3 人（国際交流基金、民間企業職員など）である。

筑波大学が大学間交流協定を結んでいるアザディ記念国立世界言語大学、オグズ・ハン工科大学以外に交流を拡大する候補としては、東京外国語大学が交流協定を持つ国際人文開発大学が候補に挙げるとの助言を受けた。なお、現在人文開発大学に東京外国語大学から来ている日本人交換留学生はいない。

10 月 14 日(火)に大使館を訪問し、説明会の様子およびコイテンダグ調査の首尾について報告を行った。

(ii) 2025/10/10(金) トルクメニスタン環境保護省との打合せ

田中准教授のトルクメニスタンにおける研究活動・共同研究に関して、トルクメニスタン環境保護省との打合せを行った。環境保護省からは共同研究について前向きな返答があったが、それにあたって MOU の締結が必要との旨が説明された。大使館の協力のもと、MOU を作成する方針となった。



打ち合わせの様子



右端が Meretdurady Bayramov 氏

(iii) 2025/10/13(月) 日本留学 OB・OG との懇談会

大使館職員 4 人、日本留学経験者・予定者 6 人とともに、アシガバード市内レストランにて懇談会を行った。

参加者

大使館：佐々木浩大使、保坂参事官、須藤二等書記官、片桐俊浩専門調査員

筑波大学：田中准教授、梶山准教授、小山

参加学生・元学生 6 名

1. Ms. Tuylieva Aysenem (UNICEF, Turkmenistan Special Policy Specialist)、2007-2013 年に東北大学大学院に留学し、博士号取得。
2. Ms. Gurbangeldiyeva Aygul (Dilmach “Economic Society” 翻訳者、アザディ大卒)、2018-

2019年に交換留学で筑波大に留学。

3. Ms. Akmyradova Sahra (オグズ・ハン記念工科大学講師、アザディ大卒)、国際交流基金による教師研修経験あり。
4. Ms. Esedova Selbi (未就職、人文開発大学卒)、2022-2024年に明治大学大学院に留学。
5. Ms. Seidova Suray (トルクメナバット36番学校英語講師、アザディ大卒)、2022-2023年に日研生として創価大学に留学。
6. Ms. Nyazberdiyev Yhlas (言語センターGujurly Nesil 英語講師、人文開発大学卒)、2026-2028年に京都大学大学院に留学予定。

⑥ アルメニア

(i) 2026/2/16(月) エレバン現地日本語教員との情報交換

ロシア・アルメニア・スラヴ大学准教授のホワニシャン先生と IROHA センター（現地日本語学校）会長ホジキャン先生と情報交換と翌日以降の大学・学校訪問に関する打合せを行った。



右端がアストギク先生、中央左がルザン先生

(ii) 2026/2/17(火) エレバン国立大学表敬訪問

エレバン国立大学を訪問し、マルカロフ・アレクサンドル教授（専門は Political Science）・国際協力部長と大学間交流について相談ののち、ホワニシャン・ホワネス学長と面談した。協定についてはマルカロフ教授が窓口となり、帰国後筑波大学とエレバン国立大学間で協定の締結に向け進めていくことに合意した。



マルカロフ教授

右奥が学長

⑦ ジョージア

2025/6/20(金) テラヴィ大学との打合せ

茨城県牛久市がジョージア・テラヴィ市との姉妹都市提携を見据えた交流を図る中で、国立テラヴィ大学が筑波大学との交流を希望していた。牛久市副市長より筑波大学、テラヴィ大学相互の紹介を受け、今後の交流可能性についてオンラインでの打ち合わせを行った。

打ち合わせでは、双方が開催する国際会議での研究者交流の可能性やテラヴィ大学への訪問についての確認を行った。

2025/12/10(水) イリア国立大学日本文化イベント



インドネシアとタイで日本語を教えていた井上夏海さんのプレゼンテーション
(2024年4月からイリア国立大学で日本語を教えている JICA ボランティア)



2025/12/12(金) イリア国立大学学長表敬訪問

出席者

イリア国立大学：Nino Doborjginidze 学長、Giorgi Gvalia 副学長、Salome Bilanishvili 国際部長、Java Meskhishvili 准教授・日本センター長
筑波大学：梶山准教授、五月女颯助教



左から Gvalia 副学長、梶山、Doborjginidze 学長、Bilanishvili 国際部長、Meskhishvili 准教授・日本センター長

2025/12/12(金) 国際交流基金川島先生の講義に参加

2025/12/12(金) JICA ジョージア支所表敬訪問

筑波大学からはトビリシオフィスの開設準備状況、ジョージアの大学との交流状況について、JICA からはジョージア国内でのボランティア活動を中心に報告し、情報交換を行った。



オフィス入り口

右が涌井純二所長

2025/12/14(日) 日本語弁論大会への参加

日本語弁論大会を見学し、日本語学習者や日本語教育機関と交流を行なった。

4 令和7年度の活動成果の分析

本章では、本年度の活動から得られた成果を分析する。1章でも述べたように、本事業の目標は CIS 地域からの留学生数を増やすことである。つまり本事業での活動による直接的な成果は、直近の留学生数を見ることでしか判断することはできない。しかし、留学生の数は来年、再来年といった直近で大きく変動することは考えにくいこと、また直近の留学生数のデータが上がってくるまではある一定のまとまった時間がかかることの2点から、本事業では、アンケート調査を行うことで、傍証として活動成果を分析することとした。以下では、実施したアンケートの設問とアンケート結果の分析を示す。なお、詳細なアンケート結果は付録として、本報告書の末尾に添付する。

(1) アンケート設問

本事業の活動では、以下の24問をアンケート調査の設問として設定した。問1~18は、日本留学候補者の特徴や属性を特定する設問となっており、どのような層が将来の日本留学生になり得るかを把握することができる。つまり、これらの設問は、次年度以降に行う説明会で提供する情報の取捨選択に有益である。また、問19~24は、説明会の評価に関する設問であり、それによって、本事業における活動の有効性を測ることができる。つまり、これら設問からは、次年度以降の活動をより良くするためのアイデアを得ることができる。

1. 年齢

①14 歳以下／②15－17 歳／③18－22 歳／④23－25 歳／⑤26－34 歳／⑥35 歳以上

2. 性別

①男性／②女性／③回答しない

3. 国籍

①ウズベキスタン／②カザフスタン／③キルギス／④タジキスタン／⑤トルクメニスタン／⑥アゼルバイジャン／⑦アルメニア／⑧ジョージア／⑨ベラルーシ／⑩モルドバ／⑪ウクライナ／⑫ロシア／⑬ルーマニア／⑭その他

4. 居住地

→各国人口上位 10 都市程度を選択肢として提示

5. 属性

①高校生／②学部生／③大学院生（修士課程）／④大学院生（博士課程）／⑤教育関係者／⑥両親／⑦その他

6. 検討中の課程・プログラム（複数回答可）

①学士課程／②修士課程／③短期交換留学／④日本語コース／⑤専門学校／⑥その他

7. 希望専攻分野（複数回答可）

①人文科学／②社会科学／③自然科学／④医学／⑤情報学・工学／⑥アート・デザイン／⑦スポーツ科学／⑧ビジネス・経営／⑨その他

8. 希望専攻を具体的に教えてください（自由記述）

9. 留学中の希望使用言語

①日本語／②英語／③両方／④その他

10. 英語レベル

①初級／②中級／③上級／④アカデミック

11. 日本語レベル

①初級／②中級／③上級／④アカデミック

12. 日本以外への留学を検討している

①はい／②いいえ

「①はい」なら 13 へ

「②いいえ」なら 14 へ

13. 日本以外の希望留学先（複数回答可）

①カナダ／②中国／③フィンランド／④ドイツ／⑤カザフスタン／⑥マレーシア／⑦オランダ／⑧シンガポール／⑨韓国／⑩スウェーデン／⑪スイス／⑫トルコ／⑬米国／⑭英国／⑮ロシア／⑯ヨーロッパ

14. 上記の国への留学を検討している理由（自由記述）

15. 両親は日本留学を支援していますか？

①強く支援している／②支援している／③どちらともいえない／④反対している／⑤強く反対している／⑥日本留学を検討していることを両親は知らない

16. 留学中の費用（複数回答可）

①自己支弁／②両親・親戚の援助／③出身国の奨学金／④留学先の国の奨学金

17. 日本留学に際しての一番の懸念

①費用／②両親への説得／③言語／④日本の文化・慣習／⑤治安／⑥学校（大学）選択／⑦その他

18. 卒業・終了後の進路計画（複数回答可）

①日本に留まって働く／②日本に留まって研究を続ける／③帰国して現地の日系企業で働く／④帰国して一般企業で働く／⑤帰国して研究を続ける／⑥その他

19. 今日の説明会で有益だった情報は何か？（自由記述）

20. どのような情報が不足していたと思いますか？（自由記述）

21. 留学説明会に求める情報（複数回答可）

①プログラム・カリキュラム／②奨学金／③出願プロセス／④日本での生活／⑤卒業後のキャリア／⑥その他

22. 説明会についての情報入手先（複数回答可）

①自分の学校・大学／②友人／③ウェブサイト／④メーリングリスト／⑤Facebook／⑥

Instagram／⑦その他

23. 日本留学に関する情報の入手先（複数回答可）

①日本大使館／②日本センター／③学校の先生／④大学のウェブサイト／⑤JASSO／⑥友人／⑦その他

24. 説明会の感想

(2) アンケート分析

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

① 全体の傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

② ウズベキスタンの回答にみられる傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

③ カザフスタンの回答にみられる傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

④ キルギスの回答にみられる傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

⑤ ジョージアの回答にみられる傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

⑥ トルクメニスタンの回答にみられる傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

⑦ アルメニアの回答にみられる傾向

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

5 次年度への課題検討

本章では、本年度の活動において残された来年度への課題について述べる。具体的には、本年度の活動を振り返ることで得られた課題と 4 章で提示したアンケート結果から得られた課題のそれぞれについて検討する。

(1) 本年度の活動で残された課題

本節では、本年度の活動で残された主な課題を 4 点挙げ、それに対する来年度の以降の具体的な改善案について述べる。

① キルギスに特化したリクルーティング策の強化

1.2 節で述べたように、本事業計画時点で定めた留学生の総数の達成目標は、本年度の開始時点で達成されている。また、各国ごとに定めた数値目標に関していえば、優先取組国の中では、キルギスを除いて既に達成されている。本事業で行ってきた活動は有効であることが示されたが、同時にキルギスの留学生数を増やすための対策をさらに講じる必要がある。本年度は、キルギスに特化した対策を講じることができなかったという点が 1 つの大きな課題として残った。

キルギスに特有な日本留学の妨げになり得る要因として、日本の教育制度との接続性の違いがある。キルギスでは、他の重点取組国とは異なり、中等教育が 11 年制であるため、日本に留学する際に直接接続することができず、1 年間穴埋めをする必要がある。このようなキルギス特有の懸念や日本留学をする上での妨げをいかに克服できるかについて、詳しく説明をすることが 1 つのキルギスに特化した対策として考え得る。また、3 章で挙げたアンケート結果において、キルギスでの留学説明会で不足していた情報として、生活情報を挙げる回答が複数あったことから、在日キルギス留学生協会との連携を強め、日本でのリアルな留学経験を伝えてもらうこともキルギスでのリクルーティング活動において重要であると考えられる。次年度は、このような課題を活かして活動する必要がある。

② ジョージアでの活動強化

本事業で優先取組国としている 4 か国のうち、他の 3 か国と比べ、ジョージアでの活動はオフィス開設準備が中心となり、リクルーティング活動にはあまり力を入れることができなかった。中央アジア諸国と比較するとコーカサス諸国における人口は圧倒的に少ないという事情はあるが、日本との交流が限定的である分、ジョージアを中心にコーカサス三カ

国で積極的に事業を進めていくことの意義は大きい。現地オフィスは、2026 年 2 月からプレオープンをしており、5 月に正式に開所する。次年度は、このリエゾンオフィスを拠点に現地関係機関と密に連携しながら、学校訪問や留学フェアの開催など、本格的なリクルーティング活動を進める計画である。

③ 帰国留学生とのネットワーク構築の強化

上述した通り、帰国留学生とのネットワーク構築は、日本留学を促進する上でも重要である。本年度は、帰国留学生を留学説明会に帯同させるなどの活動を通じて、帰国留学生との関わりを強め、各大学の、また各国の同窓会の分布状況等の調査を行った。次年度は、本年度までの調査に基づいて、本格的なネットワーク構築に取り組むことを予定している。具体的には、優先取組国であり、また特に帰国留学生の情報が重要であると考えられるキルギスの留学生協会との連携を皮切りにウズベキスタンなどの留学生同窓会との連携を進める。

④ 本事業専用のホームページ開設

本事業を国内外に広く発信するために専用ホームページを開設することも有益であると考えている。本年度は、実際に開設をするため、ウェブサイト作成業者より見積もりを取得した。次年度は、これをもとに専用ホームページを開設する。

⑤ 国内連絡会議の開催

本年度は個別の説明会や留学フェアなどのイベントを延べ 55 回開催し、4,500 名を超える来場者を得た。また現地の情報収集として、7 カ国 65 以上の大学・機関との打合せ等を行った。しかし、得られた情報を国内大学へ還元する活動としては、個別の大学との打合せ（8 校）と日本ロシア語教育学会での発表に留まっている。対象を限定しない、国内教育機関への広い周知活動は行えていない。そこで、次年度は留学フェアの広報・周知を目的として、夏ごろに 1 度、可能であれば年度末に事業の報告会として 1 度国内大学向けの連絡会議を開催する。

(2) アンケート結果から得られた課題

本節では、4 章で提示したアンケート結果から得られた課題を 4 点挙げ、それに対する来年度以降の具体的な改善策について述べる。

① 留学課程

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

② 言語

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

③ 留学先としての日本

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

④ 費用

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

付録

(1) アンケート回答一覧

① ウズベキスタン（回答数：422 件）

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

② カザフスタン（回答数：45 件）

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

③ キルギス（回答数：58 件）

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

④ トルクメニスタン（回答数：30 件）

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

⑤ アルメニア（回答数：67 件）

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。

⑥ ジョージア（回答数：15 件）

回答者のプライバシー保護のため非公開とする。